中日新聞 NIE ガイドブック

「新聞」でつくる授業

新学習指導要領と活用法 小学校編

はじめに

新聞の多様な活用ぜひ

中日新聞 NIE 委員会委員長　**水野　和伸**

NHK の長寿番組だった「週刊こどもニュース」が、2010 年（平成 22 年）末をもって終了しました。視聴者の大半が子どもではなく、高齢者になってしまった、という廃止の理由を聞いて、ちょっと滑稽（こっけい）なような、情けないような不思議な気持ちにとらわれました。

政治、経済、外交など社会全般にわたり、大人でもなかなか理解できないような問題を、小学生でものみこめるよう丁寧に作られた良い番組でしたが、肝心の子どもが見てくれないのでは、制作者もさぞかし無念だったろうと思います。

小さくまとめ過ぎず

子どもから若者まで、自分が関心を持つ領域がどんどん狭まっているような気がします。海外への留学希望者も減り続けているといいます。いわゆる「小さな幸せ」を求めること自体、決して否定すべきことではありませんが、あまりに若いうちから小さくまとまってしまうのも考え物です。

そんな時代の風潮の中で、新聞になにができるのだろうかと考えました。11 年（平成 23 年）度から新学習指導要領がスタートします。2002 年（平成 14 年）のいわゆる「ゆとり教育」を打ち出した指導要領から 10 年目の改訂です。

新指導要領では言語活動の重視、が上げられ、解説では読書習慣を身につけさせる努力とともに、新聞をさまざまな形で授業に取り入れるよう求めてもいます。

そこで中日新聞社は今回初めてこの「NIE ガイドブック」を作成しました。NIE（Newspaper in Education ＝教育に新聞を）活動は現在世界の 60 余りの国で実践され、多くの国で「民主主義を支え、よりよい市民を作る」と考えられています。ガイドブックは先生方を対象に、中日新聞が行っている NIE 活動をできるだけ具体的に紹介することを心掛けました。

NIE 活動の大きな柱として取り組んでいる「新聞切り抜き作品コンクール」に関しては切り抜き作品の作り方を、取材の方法や記事の書き方については、実際に教室に記者を派遣する講座の利用の仕方を紹介しています。

有効なデータベース

インターネットを使っての情報検索はいまや当たり前です。中日新聞は過去 24 年間、400 万件を超す記事をデータベース（DB）として蓄えています。平成 22 年から DB を学校でも活用していただけるよう、愛知県内の一部の小中学校の授業で試験的に使っていただいています。

たとえば遺伝子組み換えをテーマに賛成、反対それぞれの見解を DB から探り出し、生徒の認識を深める、といった形で利用した中学校の先生もいらっしゃいます。

ガイドブックの狙いは、先生方に利用していただくことで、子どもたちの知的好奇心を刺激し、彼らの視野を少しでも広げるお手伝いをしたい、ということにあります。

新指導要領には、経済協力開発機構（OECD）の前回の「生徒の学習到達度調査」（PISA）で、日本の子どもの総合読解力が低下していることへの懸念もこめられているような気がします。OECD では新聞を読む頻度と PISA の獲得点数の関係も調査していますが、「まったくかほとんど読まない」から「週に数回」まで 5 段階に分けると、各国ともに「週に数回」と回答したグループの得点がもっとも高いことが分かりました。「週に数回」新聞を読む子どもの率がもっとも高い国は、PISA の総合読解力で常にトップを行くフィンランドでした。

我田引水のような話になりましたが、このガイドブックが少しでも教育現場で役立てていただければ幸いです。

CONTENTS

目 次

中日新聞NIEガイドブック
「新聞」でつくる授業

2 **ハウ・ツーNIE**
NIE 事務局長　西尾　敏正

4 **新聞活用学習**
学ぼう新聞の基礎基本
浜松市立船越小学校　山崎　章成

6 新聞記事読み比べ
岐阜県北方町立北方小学校　吉田　光宏

8 新聞記事読み比べ
愛知県安城市立安城中部小学校　小野内博史

10 道徳の授業で活用
岐阜県北方町立北方小学校　吉田　光宏

12 お気に入りの記事で新聞クイズ
三重県志摩市立国府小学校　中北　好美

14 ●わが社の教育紙面
教育報道部部次長　川本　公子
NIE 事務局長　西尾　敏正

20 ●わくわく新聞講座、記者派遣
NIE 事務局長　西尾　敏正
委員　渥美　勝朗
委員　服部　賢

22 新聞を教材価格で提供します

23 ●新指導要領にピタリの記事DB
電子メディア局委員　伊藤　年一

26 新聞切り抜きで、ゆるキャラ情報ゲット
三重県志摩市立国府小学校　中北　好美

28 学んだ言葉大切に　表現力をはぐくむ
岐阜県垂井町立合原小学校　松岡　裕二

30 新聞切り抜き作品作りの意義
中日新聞社 NIE コーディネーター　原田　紀保

32 切り抜き作品の募集要項

33 新聞学習カリキュラム
NIE 事務局委員　渥美　勝朗

34 **新聞の作り方学習**
地域の人を取材し記事に
愛知県豊橋市立飯村小学校　小野　浩史

36 教科と関連させた「学級新聞作り」
岐阜県垂井町立合原小学校　松岡　裕二

38 新聞作りこうして
愛知県安城市立安城中部小学校　小野内博史

40 新聞を作ろう
三重県桑名市立深谷小学校　尾関　一夫

42 ●「新聞ができるまで」
NIE 事務局委員　服部　　賢

44 ●学校・学級新聞コンクール
NIE 事務局委員　服部　　賢

45 ●先生のための研修会「パソコン教室」
●ドラゴン号の派遣
NIE 事務局委員　服部　　賢

46 ●愛知教育大学連携講座
中日新聞社 NIE コーディネーター　原田　紀保

48 **新聞の機能学習**
「情報発信に効果的なメディア」を考えよう
愛知県豊橋市立飯村小学校　小野　浩史

50 情報を読み解く力を身に付けよう
浜松市立船越小学校　山﨑　章成

52 情報の宝庫「新聞」
三重県桑名市立深谷小学校　尾関　一夫

54 ●NIE 週間行事「ファミリー新聞講座」
中日新聞社 NIE コーディネーター　加藤　榮治

56 ●中日新聞見学　こんな風に
NIE 事務局　門脇　　力

57 **新聞教育の指導**
●先生のための教育セミナーを開催
NIE 事務局委員　渥美　勝朗

58 ●教育セミナー基調講演
なぜ学校で新聞を活用するか？
愛知教育大学教授　土屋　武志

62 ●教育セミナー「現場からの報告」
新学習指導要領と NIE
浜松市立船越小学校　山﨑　章成

66 ●中日いきいき学習賞、特別奨励賞
中日新聞社 NIE コーディネーター　加藤　　毅

67 **編集後記**
NIE 事務局委員　渥美　勝朗

ハウ・ツー NIE

新聞はもう一つの教科書

本年度の教科書から新聞にかかわる単元が大幅に増えます。国語、社会をはじめ理科、生活、家庭、保健、図工などすべての教科でいろいろな扱いがなされています。なぜ、これほど新聞に関する学習が増えたのでしょう。

言葉は成長の泉

それは、新学習指導要領で「言語活動の充実」が各教科にまたがって重要であると位置づけられたからです。背景には経済協力開発機構（OECD）が行った2003年の学習到達度調査（PISA）で日本の学力、特に「読解力」が急に低下した事実が挙げられます。09年の調査では、回復の兆しをみせましたが、まだ十分とは言えません。

言語活動の基本は、読む、聞く、話す、書くことです。最近、若者のコミュニケーション能力の低下が言われますが、これも言語活動の不足による現象と言えます。

これを改善、補うために「新聞力」を活用するのには理由があります。新聞は自分の住んでいる地域だけでなく、日本や世界の日々の出来事を活字で伝えてくれます。言語活動のもとになるのは、文字力、語句力、語法です。新聞を読むことは、言葉を学びながら、社会への関心を広げていくことです。新指導要領にある「生きる力」も、子どもが社会とつながる中で培われます。

「紙面に親しむ」から

しかし、小学生に漢字の多い新聞を読ませようと思っても、それは無理です。新聞に関心を持たせ、読む習慣をつけさせるのが先生の役割です。初めは写真や漫画でもかまわないのです。新聞という媒体に慣れさせ、記事から自分の世界が広がっていくような体験をさせることが大切だと思います。

新しい教科書は低学年の場合、「一平方メートルってどのくらい」「数をさがそう」など、遊び感覚を取り入れた工夫もされています。新聞を使った授業で児童が「発見の喜び」を味わうことができれば学習意欲が高まるはずです。

新聞を教材にした授業は、個々の先生によって昔から行われてきました。日本新聞協会から生まれた財団法人・日本新聞教育文化財団は二十数年前から教育界と連携し、社会性豊かな青少年育成や活字文化と民主主義社会の発展を願い、学校で新聞を教材として活用するNIE（教育に新聞を）活動を展開してきました。NIEを実践する小中高校の数は近年では500校を超しています。

推進協にご相談を

各都道府県には、NIE活動を推進する推進協議会があり、新聞活用を後押ししています。これまでに、多くの実践例と活用のノウハウが蓄積されていますので、具体的な活用方法で行き詰まったら、門をたたくと便利です。

自分が新聞をあまり読まず、授業で使った経験のない先生はとまどわれるかと思います。それは、活用の仕方が分からず、教育の効果が具体的にイメージできないからです。

しかし、心配するには及びません。そんな先生に「案ずるより産むが易（やす）し」の言葉を贈りたいと思います。児童は、大人にない若々しい「想像力」という宝を持っています。それに点火しましょう。

読み取り鋭い児童

以下の文章を読んでみてください。

「いつも何気なく机に置いてある新聞。僕より

いろいろなことを知っている。僕より教え方が上手、まるで言葉の宝箱だ」

「私は、ある新聞のコラムを読んで強く考えさせられました。コラムの中で、『自分で自分を不幸にしない』という言葉にひかれて記事を読み進めました（中略）。私も、世間の価値観に踊らされず、自分の幸せは自分で勝ち取りたい」

「新聞を読むと三つのよいことがあります。①最近あった世の中の出来事がよくわかる②漢字の読みが覚わる③天気予報が一目で分かる（中略）。心に残った記事は詳しく読んだり、分からない言葉は辞典でひいたりするように心がけています」

―どうでしょうか。どれも小学生のものです。大人顔負けの文章だと思いませんか。これらは10年11月、本社で開いた新聞講座の際、「新聞は友達」の題で寄せられた作品の一部です。どの子も、学校や家庭で新聞を読む指導を受けています。

NIE週間で、初の試みだったので、果たして小学生から作品が寄せられるか心配でした。しかし、集まった作品（約150点）を読んで圧倒されました。子どもたちは自分の頭でしっかり対象をとらえ「考える力」を働かせているではありませんか。伸びようとする「若い芽」に触れた思いがしてうれしくなりました。

先生は探究者であれ

名古屋大学長や臨時教育審議会（臨教審）第四部会長を務められたた飯島宗一氏（故人）が若き日の忘れられない授業のことを「三澤先生の授業」という一文（「学窓雑記Ⅰ」所収）に書かれています。

「最初の時間に、先生はいきなり、『地理というのはね、大地と大気の接触面を勉強する学問ですよ』と言われた。田舎の小童であった私たちは、まず、先生のこのオリエンテーションに驚き、やや呆気（あっけ）にとられた。そしてやがて、おぼろ気ながら納得すると同時に、一種の開眼の感動を味わったのである」。「その独創的結晶にこもる力が幼稚な頭脳に、啓発をもたらし、感動を与えた」と。三澤先生は、同氏がかつて通った旧制諏訪中学の地理の先生でした。「教師自身に探究の実践がなく、教育の原点たる誇りのないところに生き生きとした教育はない」とも。

このように、先生は探究者であってほしいと思います。新聞は新鮮な「素材」です。教材として使う時に、言葉でも事象でもいいのですが、先生自身が新聞を読んで何か一つ発見してみてください。その喜びや、驚きがなくては、児童に新聞のおもしろさや良さが伝わらないと思うからです。

最大の喜びは「成長」

新学習指導要領は、言語活動の充実のほか▽基礎的な知識、技能の習得▽課題解決に必要な思考力、判断力、表現力の育成▽主体的に学習に取り組む意欲と学習習慣の確立―も挙げています。NIEの実践者は、読み比べ、新聞作り、切り抜き作品、取材などさまざまな教育方法の開発を重ねています。教材への着眼、開発こそプロの技です。「児童の気づき・成長」に触れることは先生の最大の喜びのはずです。

「先生、新聞って漢字の宝箱だよね」という言葉に触発されて、新聞は漢字の学習に使えると教えられた先生。気に入った記事をスクラップして感想を書かせ、3カ月後に児童がこれまで読むことがなかった紙面を読むようになったことに驚いた先生。皆、うれしそうに話してくれました。動機づけや後押しはもちろん大切ですが、児童とともに探究、発見する「伴走者」でいてください。押しつけでは長く続きません。楽しさやゲーム感覚も大切な要素です。

子らの「なぜ」育てて

新聞には、記事がたくさん並んでいますが、これは現代の「意味」と「価値」の序列で編集されているのです。PISA型学力とは一言で言えば情報の吟味力、想像力、活用力です。教育の役割が次代を託す若い人たちに、世の中の意味と価値に気づき、考えてもらうことだとすれば、森羅万象を対象に毎日、世界という全体像の中で記事を取捨選択、編集している新聞は格好の教材と言えるのではないでしょうか。NIEは難しくありません。肩に力を入れず、楽しみながら取り組んでください。時間をかけて新聞と付き合い、子どもたちに物を見る目と考える力、「なぜ」と問いを発する力を育ててほしいと思います。

新聞活用学習

学ぼう新聞の基礎基本
―新聞との出合いの学習―

浜松市立船越小学校　山﨑　章成

1，新聞をまるごと読もう

低学年から高学年まで、さまざまな学習のまとめの表現として新聞の形式を利用することは数多い。

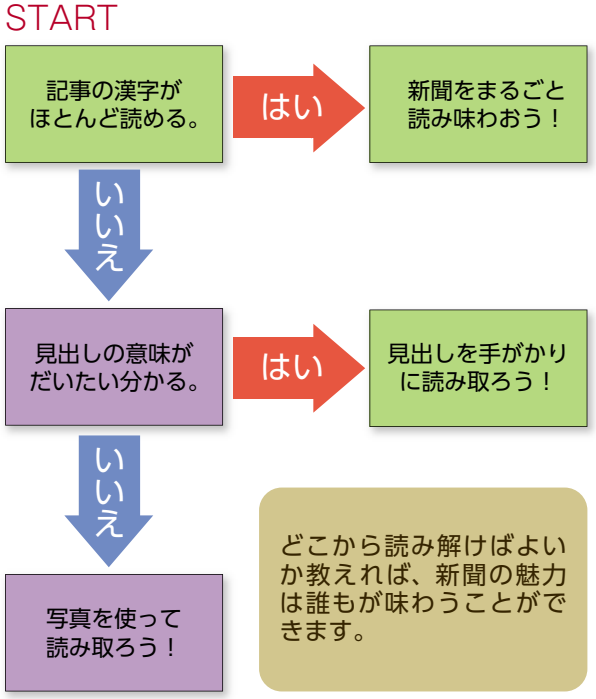
そこで、低学年の段階で、新聞をまるごと見わたす体験をもたせ、学年の発達段階に応じて、新聞とは何かを理解させたい。

日記や感想文などと区別するためにも、低学年の段階で「新聞は多くの人に出来事や自分の思いなどを分かりやすく伝えるもの」等、理解させたい。中学年、高学年と進むに連れて、事実と意見を分けて書くことや、見出し、リード文の活用、逆三角形の構成などを理解させていきたい。

【学習展開例】

1. 新聞を１面から最終面まで見わたし，気付いたことを話し合う。
2. 見出しやリード文，逆三角形の構成など新聞の特徴について調べる。
3. 自分に合った新聞の読み方を見つける。
4. 新聞の特徴と，今後の活用の仕方をまとめる。

【新聞読み解きテクニック】



2，新聞の読み方を学ぼう

新聞は、全ての記事を読まなくても自分に必要な情報を得ることができます。そんな特性を生かすと、どの学年の子どもも新聞から学ぶことは可能です。

左記の図は、子どもの実態に合った読み解き方を紹介したものです。記事が読めない子は見出しを手がかりにし、それも無理な子は写真を見るだけでも学ぶことができます。

新聞記事は、リード文や記事の第一段落に、その要旨が５Ｗ１Ｈを踏まえた形で書かれています。

どの学年も
新聞から学べる

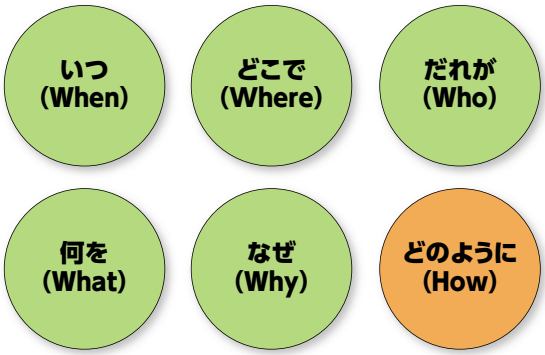
見出しはその記事で何を伝えたいかを一目で分かるように付けられ、写真は現場の状況が一目でわかるように載せてあります。

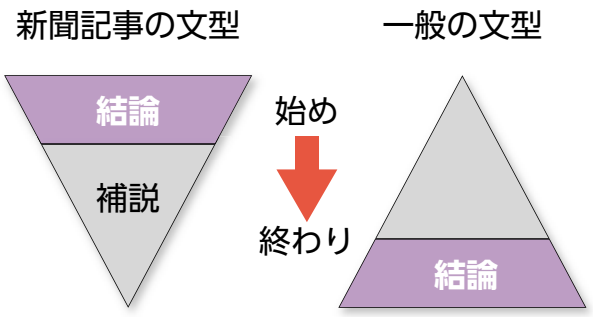
記事の概要を、見出しや写真から学ぶことができることを教えることによって、新聞活用の抵抗感を減らし、積極的に活用を促すことができます。

記事の内容が一目で分かる見出しが大切

【5W1H】

5W1Hは「正確に，分かりやすく，大切なことをきちんと伝える」ために，重要な要素。





3，逆三角形の構成

新聞記事の文体の大きな特徴として、逆三角形の構成があります。一般的な文型は、最も言いたいことは文末に書かれることが多い。それに対して、新聞記事においては、一番言いたいことを始めにズバリと書き、それ以降に補説を付け加える文体になっています。こうした文体を理解することは、新聞を読み解くのに便利になるだけでなく、分かりやすく情報を発信するためにも有効です。

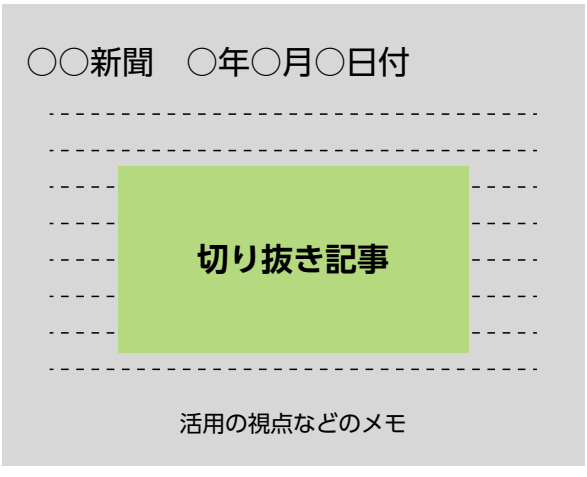
4，新聞を教材化するために

新聞は日々の出来事を発信し続けていますが、授業に役立つ記事が毎日載っているわけではない。しかしながら、新聞からしか得ることができない情報があることも事実です。そこで、「これは使える」と思った記事と出合った場合は、スクラップして保存するようにしたい。活用しやすいスクラップにするために、「何に活用できそうと考えたのか」、「どのように活用できそうか」等を余白にメモしておくと便利です。

「環境学習に使う記事を集めたい」「地域の歴史を調べたい」など、テーマが決まっている場合は、専用のスクラップブックを用意すると効率的です。

保護者に「○○の記事を学校で使いたいのでご提供を」と呼びかけると、多くの記事が集まり、授業をはじめ、職員研修、保護者の啓発資料に役立てることができます。こうして集まった切り抜き記事を教室などに掲示していけば、いつでも新聞のある環境を校内のさまざまな場所に展開することも可能です。

【スクラップの例】



新聞活用学習

新聞記事読み比べ

岐阜県北方町立北方小学校　吉田　光宏

小学校５年生の社会科の情報単元で、新聞などの情報産業と国民生活との関わりを具体的に調べ、その影響力や有効な活用の重要性を学ぶ学習があります。

小学校社会科

《小学校学習指導要領》
（社会科第５学年の内容）
我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

・放送、新聞などの産業と国民生活とのかかわり
・情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり

《小学校学習指導要領解説社会編 P67》
マスメディアの働きや、それを通して送り出された情報が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを調べ、情報を発信する側に求められている役割や責任の大きさ、情報を受け取る側の正しい判断の必要性などについて考えをまとめることが大切である。

ここでは情報の双方向性を考慮し、送る側の役割や責任だけでなく、受け取る側の正しい判断の必要性といった情報モラル学習の側面も持ち合わせています。

そこで、情報を送る側である新聞社や放送局等が、どんなことを大事にして仕事にあたっているのかといった工夫や苦労に迫ることによって、自分も含めた情報発信者の役割と責任について考えさせます。受け取る側にどんな配慮や判断が必要であるかを考えさせる単元の構成、授業展開の中で、新聞社を取り上げ、新聞を活用することができます。

授業で今回、着目したのは、同じ日の同じ新聞社が発行した新聞でも、版によって内容が異なっていることです。これを取り上げることによって、原稿の締め切りぎりぎりまで記事の差し替えを行いながら、より最新の情報を伝えたいという新聞づくりに携わる人の願いを、具体的紙面（※本時は岐阜県で起こった恵那山飛行機墜落事故）を教材にして、自らつかみとっていくことができます。

【単元名】
私たちの生活と情報
～新聞づくりと情報の役割～

【ねらい】
時間ぎりぎりまで記事の差し替えを行いながら、より最新の情報を読者に伝えたいと、願いをもって、新聞づくりをしている新聞社の方の努力・工夫に気づくことができる。
（思考・判断）

●導入（つかむ）
１，新聞を見比べ、その違いに気づき、課題づくりをする。
●展開（深める）

同じ日の新聞なのに、なぜ見出しや記事の内容が違った新聞が発行されているのだろう。

2，課題に対する自分の考えづくりをし、検証資料（既習の関連資料も含む）から、根拠をはっきりさせて、意見交流をする。
・「読者の所に届く時間を考え、地域区分から早版と遅版といった紙面づくりがなされているんだ。」
・「より早く、正確に、わかりやすく、最新の情報を届けようとしているんだ。」

【学習活動・指導援助の工夫】

※「なぜ１度作った新聞をわざわざ記事を作り直してまでして、新聞を届けようとするの？」と投げかけ、そこに込められた新聞づくりに携わる人の、最新の情報を伝えたいという使命に気づかせる。

●終末（まとめる）

3，編集局整理部員の話から、新聞作りに関わる願いについてまとめる。

《評価》

時間ぎりぎりまで記事の差し替えをしているのは、より最新の情報を読者に伝えたいという使命感に支えられていることに気づき、ノートに記述できる。

小学校国語

《小学校学習指導要領》

（国語第５学年及び第６学年『読むこと』の内容）

※指導事項

目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

※言語活動例

編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。

《小学校学習指導要領解説国語編 P92》

新聞を取り上げ、編集の仕方や記事の書き方に注意して読む言語活動である。新聞は、多数の人々や広い範囲に配布されるメディアとして編集され、社会・経済・政治・産業・国際・教育・文化・スポーツなど多岐にわたる内容が取り上げられている。編集に当たっては、活字や図・写真などの大きさや行数、配置などを決める割り付けなどが行われている。記事は、逆三角形の構成と呼ばれることもあるように、結論を先に示し、リードから本文へと次第に詳しく記述されている。また、事件や出来事の報道記事だけでなく、社説・コラム・解説などの記事もある。このような特徴を理解し、編集の仕方や記事の書き方に注意して読むことが大切である。

小学校５年生の国語（光村図書）、読むことの単元に、『新聞を読もう（新聞の編集の仕方や記事の書き方に目を向けよう）』という題材があります。他の出版社の教科書にも新聞を活用した題材が掲載されています。

●導入（つかむ）

1，２つの新聞が掲載した写真、見出しを見て、違いを探す。

●展開（深める）

２つの新聞記事を読み比べ、その記事の書き方の特徴を読み取ろう。

2，２つの新聞記事の本文を提示し、どちらがどの写真と対応しているのかその根拠をはっきりさせて考える。

※根拠となる言葉、文、接続語などに着目し、そこからどう感じるのか、どんなことが言えるのか。

※個人追究→ペア交流→全体交流

●終末（まとめる）

3，本時学んだこと（内容や書き方の違いによって、読む人の印象は違ってくること）をまとめる。

新聞活用学習

新聞記事読み比べ

愛知県安城市立安城中部小学校　小野内博史

ねらい：　数社の新聞を読み比べることを通して、同じできごとでも伝え方が違うことを知り、新聞が読み手を想定して編集されていることや、記事の書き方によっては読み手が異なる解釈をすることに気づかせる。

日ごろ子どもたちがよく目にする新聞。その読み方を考えてみましょう。そのために新聞がどのように作られているかを知り、記事を読み比べてみるとよいです。

●一般紙とスポーツ新聞を読み比べてみましょう

一般紙とスポーツ紙は、どこが違うでしょうか。新聞を読む立場から考えてみましょう。

一般紙	スポーツ紙
各家庭に配達が多い。	販売店やコンビニエンスストアが中心。
幅広い読者。	スポーツに興味を持っている人が多い。

一般紙とスポーツ紙では、その読者に違いがあります。そのために記事の書き方も違ってきます。まず記事をどのようにレイアウトしているか、みてみましょう。

平成22年11月22日の新聞は、名古屋グランパスエイトが前日、リーグ戦で優勝したことを取り上げています。地元のチームの優勝だけに、一般紙、スポーツ紙とも1面で大きく取り上げました。

一般紙「中日新聞」	スポーツ紙「中日スポーツ」
グランパス優勝以外の記事もある 写真あまり大きくないが、文は長め 見出し 「Jリーグ18年目悲願達成　グランパス初V」	グランパス優勝の記事のみ 写真が大きく、文は短め 大きな見出し 「初優勝　ピクシーがいたから」

●同じ事実がどう書かれているか調べてみましょう

・異なる地方で発行されている新聞で比べてみよう

平成22年11月8日の新聞には、前日のプロ野球日本シリーズで、「千葉ロッテ」と「中日」が対戦し、千葉ロッ

テが日本一になったことが書かれています。この日の「千葉日報」と「中日新聞」を比べてみましょう。

見出しを比べても、千葉日報は、千葉ロッテが日本一になったことを取り上げ、一方、中日新聞は、中日が力尽き負けてしまったことを取り上げています。だれを主体にして書くのかが、全く異なります。また、千葉日報が優勝の瞬間の写真を１面に取り上げているのに対し、中日新聞では、写真が掲載されていません。

千葉日報（千葉県）	中日新聞（愛知県）
千葉ロッテ日本一　中日下し５年ぶり	**竜、延長で力尽く**　ロッテ５年ぶり日本一

このように違うのは、記事が、読者にとってより身近なことを中心に書かれているからです。つまり新聞の見出しや記事は、読者を想定した作り手の意図が表れてくるものです。

●スポーツ紙同士も比べてみましょう

中日スポーツ	スポーツ紙 A	スポーツ紙 B
何かが足りなかった　落合監督	日本一の下克上　ロッテ	下克上舞い　ロッテ　日本一の和

中日ファンが読むことの多い中日スポーツは、中日が負けてしまった、日本一になれなかったことを取り上げています。「何かが足りなかった」と語る監督の言葉を見出しにし、優勝の瞬間の中日のベンチの様子を写真で切り取っています。一方、他紙では、リーグ戦３位から日本一になったことを「下克上」と表現し、監督の胴上げや優勝の瞬間の写真を一面に採用しています。こちらも、どういう読者が記事を読むことが多いかを考え記事が書かれていることがわかります。

《やってみよう》

同じ日の新聞を読み比べて、そこから作り手の意図を読み取ってみましょう。

※ある日の一般紙とスポーツ紙を用意して、同じできごとが、それぞれどのように書かれているか、調べてみましょう。

※旅行に行ったとき、その地方で発行されている新聞を入手し、自分たちがいつも読んでいる新聞との違いを探してみましょう。

※自分たちの住んでいる地方で入手できる新聞を用意し、一つの事実について、どのように扱い、記事が書かれているか調べてみましょう。

新聞活用学習

道徳の授業で活用

岐阜県北方町立北方小学校　吉田　光宏

《小学校学習指導要領解説道徳編 P88》

（道徳の時間に生かす指導方法の工夫）

※説話の工夫

説話とは、教師の体験や願い、あることについての感じ方や考え方などを語ったり、日常生活、新聞、雑誌、テレビなどで取り上げられた問題などを盛り込んで話したりすることによって、ねらいの根底にある道徳的価値を児童が一層主体的に考えられるようにしようとするものである。教師が意図をもってまとまった話をすることは、児童が思考を一層深めたり、考えを整理したりするのに効果的である。教師が自ら語ることによって児童との信頼関係が増すとともに、教師の人間性がにじみ出る説話は、児童の心情に訴え、深い感銘を与えることができる。

上記のように、道徳の時間の指導方法の工夫の一例として、教師の説話の中に新聞の活用が盛り込まれています。

重み持つ教師の語り

全教育活動を通して、子どもたちの心根を育むことが道徳教育ですが、要となるのが道徳の時間であることを考えると、その終末の教師の説話、語りは大変重要な意味をもってきます。道徳資料等を通して、価値を把握し、自己を見つめた子どもたちの道徳的実践への意欲化を図るためにも、教師の説話の中で、新聞記事を使って子どもに語りかけることも大切です。

そこで活用できるのが、新聞の読者の投稿記事です。中日新聞では、「発言」、「ヤングアイズ」、「賛論異論」といったタイトルで毎日掲載されており、さまざまな内容の意見、主張が掲載されています。そこには読者の生の声が反映されているので、子どもたちにとっては身近な声として受け取り、共感することができます。

ヤングアイズ

実践例（6 年道徳）

【主題名】親切を生むもの

【資料名】藤井駅のホームでのできごと

〈出典：光文書院〉

【ねらい】相手の立場を理解し、誰に対しても思いやりの心をもって親切にしようとする心情を育てる。

発言

席譲った若者
優しさ胸打つ

岩谷　隆司　無職　66
（三重県亀山市）

ある会合で名古屋に出掛けたが、その時の電車内で、こんな出来事があった。八十歳近いと思われる高齢の女性が乗車して来た。つえをつき危なっかしい足どりである。その姿を見て、一人の若者が席からさっと立ち上がり、女性の体をそっと支えた。

「おばあさん、どうぞお掛けください」と、若者は優しく声を掛けた。「ありがとうございます。次の駅で降りますので立っていることを知り、うれしくなった。

その光景を見て、何か胸が熱くなった。人のことなどお構いなしという若者が多い中で、こういう若者もいなそうに答えた。

若者は座らず、次の駅までそっと女性の体を支えていた。「ご親切にありがとうございます。おかげで助かりました」と、女性は何度も頭を下げて降りていった。

※平成 21 年 5 月 10 日中日新聞

【終末…教師の説話のねらい】
自分の生活を見つめ、相手の立場に立って、親切にしていこうとする気持ちをもつ。
自分には持ち合わせていない感じ方や考え方に触れることが、自らの感じ方や考え方を見つめ、生き方についての考えを深めていく上で大きな契機となり、新聞記事の活用もその有効な方法の一つです。

【授業での子どもの発言より】
私はこの話と逆で助けてもらったことがあるんだけれど、（中略：公園でけがをした妹を助けてくれた知らないお姉さんの話をする）その時私はすごくうれしかったから、この話では多分おばあさんの立場だったと思います。もし次こうやって誰かが困っていたら、この話のようにちゃんと助けてあげたいと思うんだけれど、私はいつも心の中ではやろうと思うんだけれど、なかなか行動に表せないので、それはまだまだ人を思いやる心が少ないと思うから、もっと相手の立場になって、この話のように自分から行動に移せたらいいなあと思いました。

また現在も活躍する著名人らは、本人のリアルタイムの情報が掲載された新聞記事を授業の導入で活用することもできます。

実践例（５年道徳）

【主題名】希望をもって
【資料名】メジャーリーガー・イチロー
〈出典：学研〉
【ねらい】困難や失敗にくじけずに、より高い目標、夢に向かって、一歩一歩、努力を続けようとする心情を育てる。
【導入…イチローへの興味・関心を高める】
大リーグ 10 年連続 200 本安打達成を伝える新聞記事（※平成 22 年 9 月 25 日）

▼

帯タイムを活用して

このように道徳の時間では、子どもたちが、じっくりと、豊かに考え合い、語り合う姿をめざして、

その一つの方法として新聞活用を試みています。
道徳の時間以外でも、朝の帯タイム（ゆとりの時間）に、新聞の投稿記事を題材にしながら自分を見つめ、語り合う時間を日常的に設けることも行いました。
「私はこの話を聞いて、4 年生の時に転校してきた○○さんのことを思い出しました。その時に私が話しかけたら、とても明るく笑顔で応えてくれてとてもうれしかったんだけれど、考えてみれば、きっとその時初めての学校だから、友だちができるのかなあと不安な気持ちが大きかったんじゃないかなあと感じました」

記事から生き方学ぶ

これは『友だちの大切さに気づいた中学生』の記事を取り上げた時の子どもの発言の一部です。記事の内容から自らの体験を引き出し、中学生の思いと重ね合わせてとらえながら、友だちとのかかわり方をふり返っています。まさに新聞記事から自分の生き方を見つめ直し、よりよく生きようとしている一例です。
このように、日常的に新聞記事から自己の在り方を見つめる時間をもつことで、子どもたちからは「私は新聞記事から人の気持ちを考え、自分を振り返った後は、次はこうするぞとか、この人のようにがんばるぞという思いがわいてきて、勇気をもらった感じになります」など、この時間の意義を見いだした感想を得られるようになってきました。
つまり記事の内容から、自分の体験を、記事を書いた人の気持ちと重ね合わせながら振り返り、見つめていくことによって、自分の生き方を問い直していくことができるのです。

新聞活用学習

お気に入りの記事で新聞クイズ

三重県志摩市立国府小学校　中北　好美

1．ねらい

○楽しくクイズづくりをしながら、文章や内容を読み取る力を育てる。
○相手を意識しながらクイズをつくり、伝え合う力を育てる。

2．関連（何年生でも、どの教科でも）

①記事の読み取り・クイズづくり…国語
②自分のテーマや共通のテーマ、教科に関係のあるテーマで記事を集める…総合・理科・社会など
③写真や見出しからも OK。NIE 学習のきっかけづくりとして、特に低学年や中学年におすすめ。

3．活動を始める前に

①指導者が、クイズにできそうな記事をさがしておきましょう。地域の記事、自然や環境の記事など学年や子どもたちの実態に応じて、または、子どもたちに出合わせたい記事、何でも OK。
②事前にサンプルをつくって、できたらだれかに解いてもらいましょう。

4．活動の流れ

STEP 1　指導者の準備した写真付き記事などで、クイズをつくる。
（個人でもグループでもできます。）

写真や記事にヒントがあるクイズにする。
ヒントになるところに、マーカーなどでしるしをしてもよい。

2010.9.23

コブシメの子 スクスク

水槽生まれ 2代目です

■鳥羽水族館で展示

鳥羽市の鳥羽水族館は、二代続けて水槽内で生まれたコウイカの仲間の「コブシメ」の子どもの展示を始めた。同館によると、水槽内で卵からふ化したコブシメが親になり、産卵して、再びふ化に至った例は国内ではほとんどないという。

コブシメは、奄美諸島以南のサンゴ礁域に生息。大きい個体で胴の長さが五〇㌢に達する。

同水族館では、今年三月に水族館生まれの一代目が産卵に成功。四月に千個の卵のうち、二百七十二個体が国内で初めてふ化した。うち六十個体が約一〇㌢にまで成長したことから一部の展示を開始した。

ユニークな形と、体の色を白、褐色、黄色など変幻自在に変える特技もあり、来館者の目を引きつけている。

担当者は「餌もよく食べ順調に育っている。このまま大きくなって、また卵を産んでほしい」と話している。（遠藤健司）

水槽生まれの2代目コブシメ＝鳥羽市の鳥羽水族館で

新聞クイズ

（1）大きいコブシメの胴の長さは、どれだけでしょうか？
①５センチ　②５０センチ　③５００センチ

（2）コブシメの体の色で、ないのはどれでしょう。
①褐（かっ）色　②黄色　③緑色

（3）担当者は、何と言っているでしょう。
①えさもよく食べ、順調に育っている。このまま大きくなって、また卵を食べてほしい。
②えさをすてて海へにげていった。悲しいが、イカてきにはうれしい。
③えさもよく食べ、順調に育っている。このまま大きくなって、また卵を産んでほしい。

記事やクイズの説明・感想
かわいいイカです。
みなさんも見に行きませんか？
この問題は
クイズ１（初級）クイズ２（中級）
クイズ３（上級）です。

三択クイズのつくり方
答えは、正解１つ
まったくちがうもの１つ
まちがいやすいもの１つ

STEP 2

自分で切りぬいたお気に入りの記事で、クイズをつくる。
（個人でもグループでもできます。いきなりＳＴＥＰ②から始めても OK）
基本は三択クイズ。○○に当てはまる言葉を答えるクイズや、はってん問題も OK。
三択クイズの答えのつくり方は、ＳＴＥＰ①と同じ。記事１つにつき、２～３問。

5. 活動のポイント

ポイント１ クイズの内容は、自由な発想で。

ポイント２ Ｂ４～Ａ３くらいでワークシートをつくっておくとよい。クラスみんなのクイズを印刷して、クイズブック形式にしてもよい。

（はってん問題の例）
(1) ドラゴンズのドアラは
なぜ、ドアラというのでしょう。
？？？
ドラゴンズの ○○○だから。
答え（コアラ）

記事に関係のあることを
おうちの人に聞いたり
調べたりして、
クイズにしてみよう。

みんなでつくった
新聞クイズブック

ポイント３

クイズの答えは、用紙の端や裏面に。あるいは交互に採点しあう「クイズやさんごっこ」も楽しい。ごほうびシールなどを用意しておくのもグッド

15 2011年(平成23年)3月27日(日曜日) 中日新聞

新聞で学ぼう

避難所に笑顔咲く

東日本大震災 心の支え

子どもたちがボランティア

ジュニア中日

ニュースイチ押し

最近の動き

被災地に元気届けたい

センバツ開幕 東北高も出場

スポットライト

和装でキリリ 卒業式

新聞活用学習

わが社の教育紙面

小中学生が楽しめる４ページ

ジュニア中日

小中学生を対象にした「ジュニア中日」は、2011年３月末にスタートしました。掲載されるのは毎週日曜日付朝刊４ページ。朝刊の中央にあり、簡単に抜き取って読めるようになっています。

新たな学習指導要領に基づき、11年度から小学校、12年度に中学校の教科書が変わる中、思考力や判断力、表現力を育むための言語活動が重視されています。このため今まで以上に新聞を学校でも役立ててもらいたいと、それまでの子ども向けページを発展させる形で再出発したのです。

ジュニア中日の１面は子どもたちに読んでほしいニュースを記者が選び、「ニュースイチ押し」や「最近の動き」で紹介します。また「スポットライト」で、各地の子どもたちの生き生きとした活動にも目を向けてもらうようにしました。

多彩な職業の現場を取材

ハローお仕事

4面は、写真をたくさん盛り込んだ「ハローお仕事」です。小学5、6年生や中学生の記者がさまざまな職業に携わる人を訪ね、意外に分からない仕事の内容や面白さ、苦労などを取材します。

学校で地域の施設見学や職場体験が行われていることから、子どもが仕事について考える機会をと企画しました。こども記者や中学生記者は毎年3月に中部地方のほぼ全域から募集し、合わせて約320人を選びます。取材活動は土曜日や日曜日などに行い、約6人ずつ交代で出掛けます。

記事は主に同行する教育報道部の記者が書きますが、こども記者や中学生記者が中心になって質問し、感想も書いて紙面作りに参加しています。

※16、17ページで中央の紙面を紹介しています。

企画も取材も紙面に深く“タッチ”

「ジュニア中日」を担当する教育報道部はほかに、毎週月曜日付朝刊で「高校生ウイークリー」、毎週火曜日付朝刊で「學生之新聞」を制作しています。

高校生ウイークリー

高校生ウイークリーは、公募で選んだ高校生スタッフが記者と取材し記事化する「ホップスタッフジャンプ」、若者が関心を持つテーマを取り上げる「青旬クローズアップ」、夜回り先生こと水谷修さんのコラム「明日を求めて」があります。

學生之新聞

學生之新聞は短大、大学生、大学院生向けで、学生スタッフが企画から取材、執筆まで紙面づくりに関わる「スタッフが考える」シリーズ、キャンパスの話題を伝える「学生街ダンス」、「英語の質問箱」「研究室発」などが掲載されています。

「新聞で学ぼう」をテーマに

学校教材に最適 なるほどランド

「ジュニア中日」２面のメーン記事は「なるほどランド」です。小中学生に理解を深めてほしいニュースや社会の出来事、文化などいろいろな分野の話題を、写真や図、グラフなどを取り入れて分かりやすく紹介します。学校で授業の教材としても利用していただけるよう工夫しています。

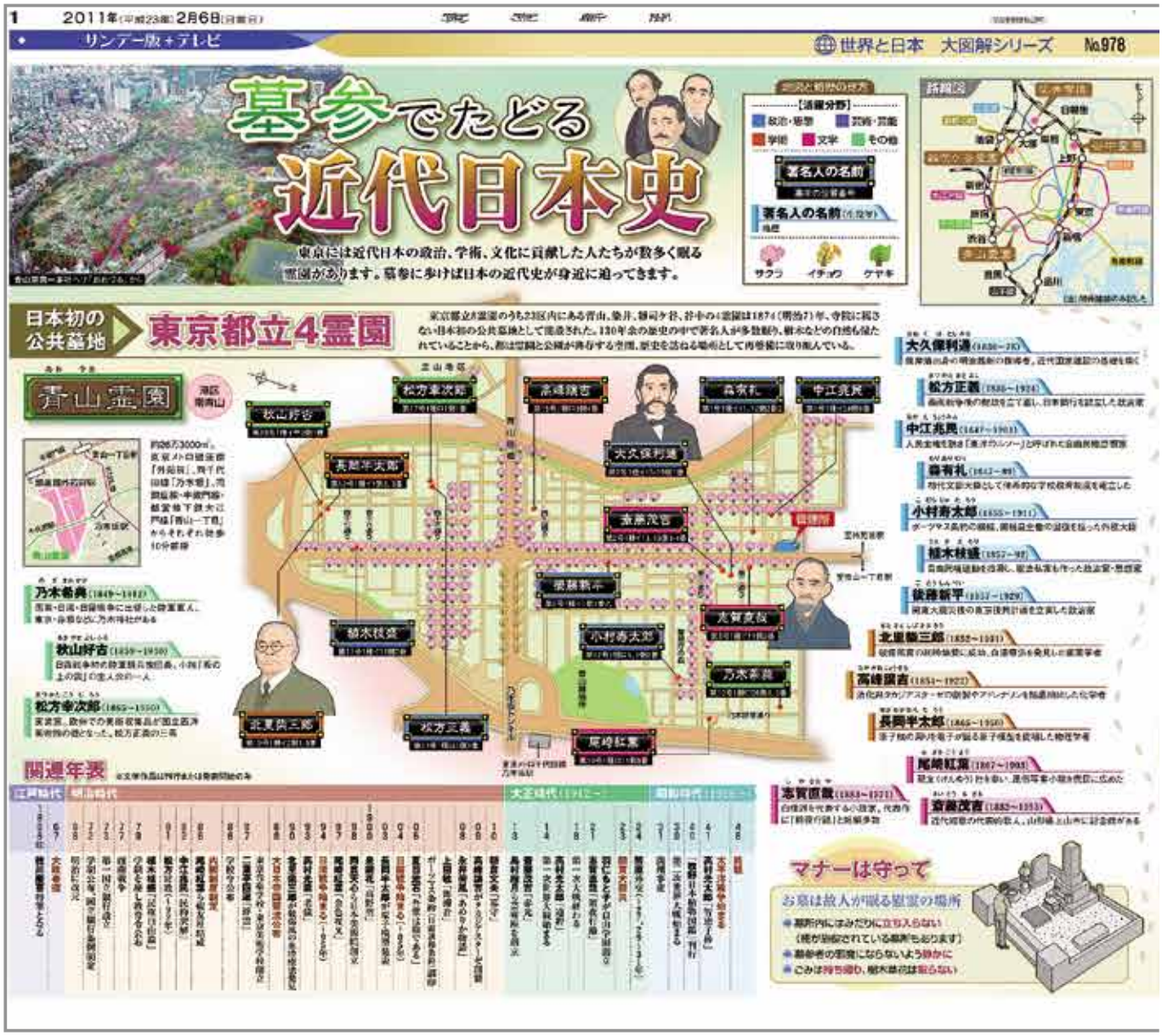
下段の「@教室」は、NIE 活動に力を入れる学校をはじめ、学習指導要領の改定などで変化する学校の取り組みなどを教室から伝えます。また「リトル・シェフの作ってみよう！」や「地球の子どもたち」は、読者の協力も得て掲載しています。いずれも学校や先生からの応募にも支えられて、幅広い年代層に好評のコーナーです。

面白く役立つ話題どっさり

新聞わーくシート 好評 Q&A 形式

3面の「新聞わーくシート」は、子どもたちに知ってほしい記事をもとに質問を作り、読者に答えてもらう形式で、記事を読み解いたり、関心を広げてもらおうという欄です。各地の学校の先生の監修を受け、10年4月からスタート。小中学生はむろん大人にも人気で、子どもたちもわーくシートを作って応募してくるほどです。

「英語パズルにちょうせん！」のコーナーは、小学校高学年の英語必修化に伴い、楽しみながら英語を覚えてほしいとの狙いで設けました。このほか、子どもの作文やイラストを紹介する「読者のひろば」、毎月1回の「親子でホームルーム」や「みんなの童話」も掲載しています。



新聞の「特性」ぎっしり

ニュース図解報道の先駆け

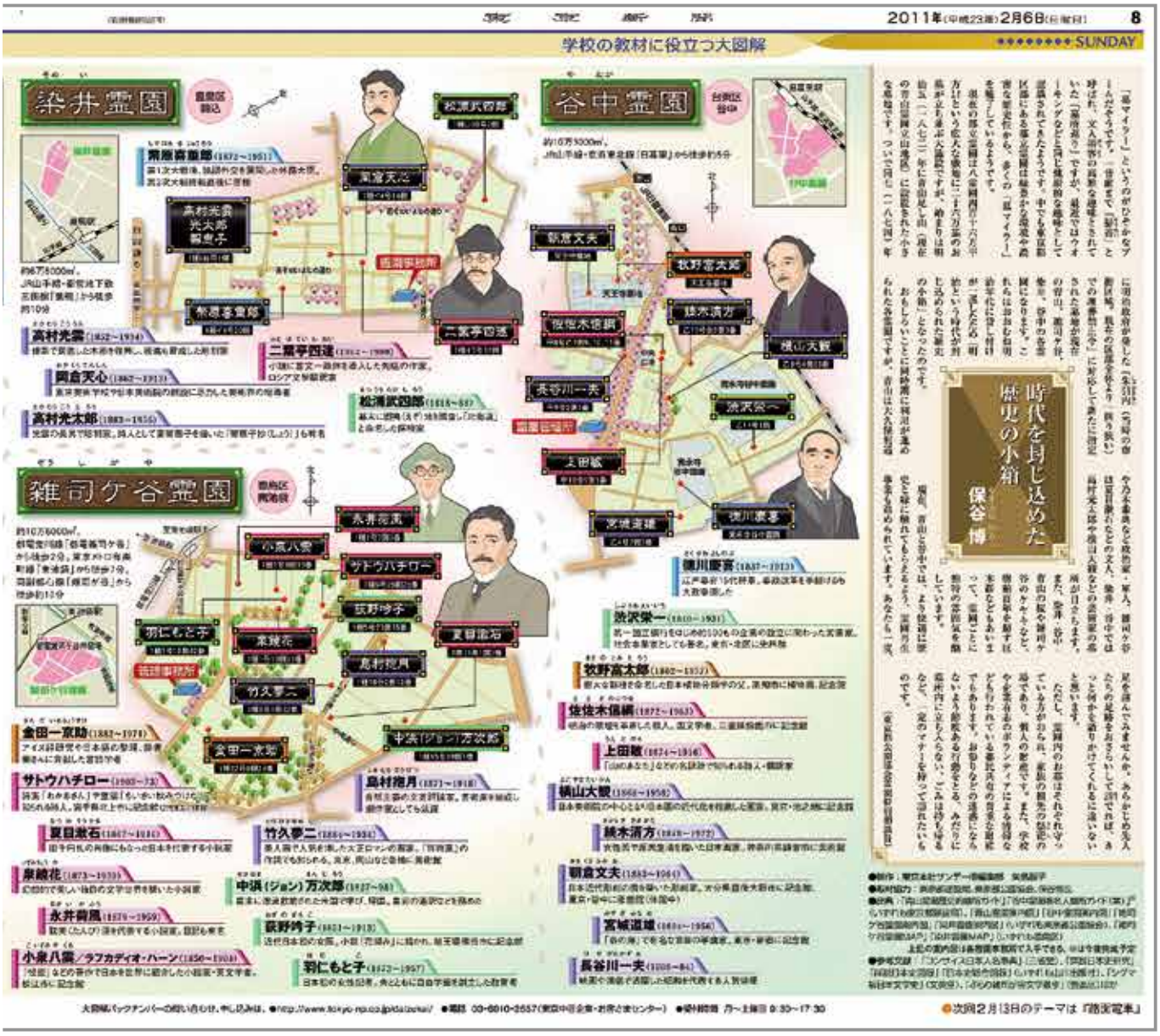
サンデー版大図解（紙面）

さまざまなテーマを図解でやさしく“解き”明かす中日新聞と東京新聞の「世界と日本　大図解シリーズ」は教育現場で広く活用され、先生から「毎号、必ず保存し利用しています」との声が届いています。

新聞には珍しい、見開き２ページでワイドな紙面構成は、1991年（平成３年）１月27日付の「湾岸情勢大地図」が原点。イラクのクウェート占領に端を発した湾岸戦争の際、日本になじみの薄い中東の基礎知識を地図に載せて読者の疑問に応え、各方面から好評を得ました。

「ざん新で、画時的な着想は、ビジュアルなカラー配色と相まって、新聞の持つ一覧性、資料性、記録性を発揮し、今後のニュース図解報道と新聞作りに先鞭（せんべん）をつけるもの」として、同年度の新聞協会賞（編集部門）を受賞。

大図解は、この手法を通常の紙面製作に生かし



一覧性から記録性まで

国際政治から文化、科学まで

ています。取り上げるテーマは、国際政治から政治、経済、社会、文化、科学と何でもありです。ソ連崩壊を受けた92年（平成4年）1月の「旧ソ連15共和国　パート1　政治・経済」の第1号から、毎週日曜日に発行され、22年12月末で通算973号を数えました。

当初の製作方針は、「専門家が納得する内容を、小学生にも分かるように」。記者がテーマに即したデータを集め、基礎知識から背景までをイラスト、図表、地図を駆使し対象を浮き彫りにします。

「あるテーマの裏には、まだ紹介されたことのない膨大な『データの海』がある」というのは、製作スタッフの感想です。

一覧性、資料性、記録性という「新聞特性」が詰まった大図解を参考に、教科の学習課題を、新聞記事の切り抜きや自作グラフ、地図、写真などで図解するのも立派な情報・新聞学習になります。大いに挑戦してみましょう。

大図解のバックナンバーを希望する方は東京中日企業＝電03（6910）2557＝へ。

新聞活用学習

わくわく新聞講座、記者派遣

わくわく新聞講座

「新聞に親しみ、新聞学習を通じ社会性を身につけて、生きる力を育んでほしい」という願いから、児童・生徒、学生だけでなく、先生やお年寄りらを対象に「わくわく新聞講座」や「記者派遣講座」を設けて、記者や記者 OB、NIE コーディネーターの出前授業をしています。学校、地域への「教育支援」の一環で無料です。

新聞学習の記者派遣を始めたのは、1999 年（平成 11 年）の「中日移動新聞学習室」です。小・中学校へ出向き、児童・生徒や先生に、新聞ができるまでの話や「新聞切り抜き作品」（30 ページ参照）の作り方などを説明しました。中日ヘリコプターも飛行、子供たちにメッセージを届けてきました。2002 年（平成 14 年）になると、記事の書き方やレイアウトの仕方などを説明して、学習に役立ててもらうことに力を入れるようになりました。

それがきっかけで、翌年の 03 年（平成 15 年）に「わくわく新聞講座」を開設。児童・生徒、大学生、先生から保護者やお年寄りまで対象を広げました。内容は、新聞の歴史や成り立ち、記者の体験談、新聞にかかわる講演会から始まって、記事の書き方、レイアウトの仕方、学校学級・個人新聞作り、新聞切り抜き作品の作り方など新聞学習、新聞活用全般です。講師は、依頼、要望に合わせて打ち合わせをし、派遣いたします。

記者派遣

同様に本社は 10 年（平成 22 年）度から、現役の記者を学校へ派遣して「出前授業」をしています。新学習指導要領の実施に伴い、学校で新聞や情報について学ぶ機会が大幅に増えるため、そのお手伝いがねらいです。

小学校の教科書では、「見てきたことを新聞にまとめよう」（3 年）、「みんなで新聞を作ろう」（4 年）、「メディアについて考える」（5 年）―など、各教科で新聞や情報が、たくさん出てきます。これは、新聞を使ってことばの基本を学ぶとともに、子どもたちの目を社会に向けさせ、情報の役割やメディアの長所、短所を早くから学ばせようということです。

新聞社の仕事はたくさんありますが、紙面製作に携わる編集については、取材部門の取材記者、本社に集まった内外の記事を取捨選択して紙面を組む整理記者、事件やスポーツなどで臨場感あふれる写真を撮るカメラマンなどがいます。いずれも重要な役割を担っています。

教室に派遣される記者は、取材やインタビューの仕方、原稿の書き方、写真の撮り方、レイアウトなどについてプロの技を教えます。野球やサッカーなどを取材している中日スポーツの記者も派遣します。新聞学習の「臨時の先生」と考えてください。ニュースを伝えようという熱意と、豊富な経験を子どもたちの授業に生かしてください。

記者にとっても、子どもたちに仕事の話をすることは、とても勉強になります。教室に出かけた記者に感想を聞くと、「子どもたちの真剣な表情にあらためて取材の責任の重さを感じた」、「（記者は）

取材相手の思いを受け止め、発信する仕事」など、記者の「原点」を見直す機会にもなっています。

講座や派遣といってもいろいろな形態があります。主なものは――。

キャリア教育

中学校で増えるキャリア教育は、就職を見据え、将来の職業選択の一助に行われています。世の中にはいろいろな仕事があり、いろいろな人たちが働いている事を知るには、直接、その人たちの話を聴くことが一番。ある中学校では、地域で働く農家、消防士、看護師、電力会社の人、スーパーの店員らを招き、2時限の授業を展開。職業人は今の仕事の内容を語り、働く誇りを示します。生徒は2つの職種を自分で選び聴講します。将来の自分と重ねて、より就きたい職種を選びます。

ある中学校では、週1回、各種職業の人をゲストティーチャーに招き、全学年の生徒に話してもらいます。2カ月に及び、8人から聴いて、職業選択の参考にします。そうしたキャリア教育の一助に記者を派遣します。

新聞の読み方

新聞を読みこなすにはどうすればいいか、について話します。中日新聞の場合は朝刊で32ページの場合が多く、1面には前日あった世界の、日本の一番大きなニュースが載ります。1面を読めば、世の中の動きが読み取れます。2面は「内政面」といい、国の動きや政治が中心です。ほかに国際面もあれば経済面も。地方版は4ページあって、全県通し2ページと、さらに細分化された地域版で構成されます。お母さんがよく読む生活面は中ほどに。運動面のあとの社会面は3ページで展開する日が多くあります。最後のページはテレビ欄。実はこのページが一番読まれています。

小中学生向きのページは日曜付で4ページ。小・中学生が取材記者になり職場を訪問した職業の内容について掲載され、難しい漢字にはふりがなが振られています。子どもたちにも分かるニュース解説や子どもの目線に立った記事がたっぷり。ニュースに親しむきっかけを提供しています。4ページごと引き抜き保存できるのも魅力です。

記事の書き方

教科書に「新聞」の単元が多くあります。例えば「新聞記者になろう」（小学4年国語）では、社会見学した結果を新聞仕立てにして報告をする、という授業が行われます。先生の中には「新聞」について詳しくない人もおり、先生に代わって新聞記者が教壇に立ちます。子どもたちと年齢がより近い新人記者が派遣される場合もあります。

新聞記者の生活、取材の方法、1日に何本の記事を書くのか、を話します。この講座で質問タイムを設けると、子どもたちから想定外の質問が飛び交います。「休みはあるのですか」「広告はいくらするのですか」「新聞の縁がぎざぎざなのはどうして」「1日に使う印刷用のインキはどれぐらい」。講師はしどろもどろ。子どもの目線にはたと気付き「会社に帰って調べて回答します」。

新聞切り抜き講習

中日新聞が進めている新聞切り抜き学習は、中部の小中高校の多くで授業に採り入れています＝詳しくは別項26ページを参照。初めて、この学習をしようとする先生や、すでに実践しているがもう少し上達するには、と悩む先生から要請があると、中日新聞のNIEコーディネーターが指導に行きます。収集テーマの決め方、記事の集め方、整理の仕方、そして模造紙に貼る方法など、細かく教えます。

自分新聞作り

教科書の「新聞を作ろう」（小学5年）で要請があるのは、レイアウトの仕方。小学生は「作文」を作る訓練はしていますが、複数の作文をメリハリを付けて1枚の紙に並べる（レイアウト）ことや、読んでもらうための工夫（見出し）には、慣れていません。

そこで登壇するのが、整理記者。たくさん集まる記事の山から、そのページに必要な記事を集め、優先順位を決めた上で、新聞1ページ大の大きさの中にレイアウトし見出しを付けてきた経験を話します。時間があれば、これまでに紙面に載った記事の見出しの文言を伏せたコピーを配り、子どもたちに見出しを考えさせる実習も組み込みます。

※記者派遣の申し込みはNIE事務局で受け付けています。電話：052（221）1047か、ホームページ（中日新聞社　NIE）で申し込んでください。
アドレスは、http://www.chunichi.co.jp/nie/です。

新聞を教材価格で提供します

中日新聞社は、2000年4月1日から、学校の授業で新聞を活用する場合に「教材価格」で提供しています。対象は、朝・夕刊とサンデー版等別刷りです。ぜひご利用ください。

- **申し込み期限**　購読希望日の1日前（日・祝を除く）
- **配達**　学校始業前にお届けします。
  （配達希望時刻が始業前でない場合、もしくは郵送手段を利用される場合を除く）
- **定価（消費税こみ）**

新聞名	銘柄	一部あたりの単価
中日新聞	朝　刊	30円（5部～）
	夕　刊	15円（5部～）
	サンデー版等別刷り	10円（5部～）
日刊県民福井	朝　刊	20円（5部～）

※各銘柄、1日当たり5部以上でお申し込みください
※例えば、中日新聞の朝刊30部を申し込んだ場合
30部×30円＝900円

- **申し込み方法**

購読申し込み窓口：中日新聞社 販売局 お客さまセンター
専用フリーダイヤル：0120-45-4010　　専用フリーFAX：0120-49-3758
※購読申し込みは上記窓口への直接受付のみといたします。

●FAXで申し込みをされる場合は、下記のことを明記してください。
（1）学校名　（2）住所　（3）担当者名　（4）電話番号　（5）お届け部数　（6）新聞銘柄（朝刊・夕刊、その他）
（7）紙面日付け　（8）配達希望日時・時刻　（9）お届け場所

新聞活用学習

新指導要領にピタリの記事DB

中日新聞は、2011年（平成23）度からスタートの新学習指導要領に合わせ、小、中、高校の教育現場で利用していただくため、学校向け「新聞記事データベース（以下DB）」を開発しました。開発目的は、新学習指導要領が児童、生徒の読解力向上のため、授業への新聞の活用を挙げていることに合わせて、学習テーマに沿った記事を検索して、学習資料にし、理解を深めもらうことにあります。社会や国語などの授業で、記事DBを単元に合わせて使えば、インターネットに接続したパソコンで掲載された記事を簡単に検索、表示、印刷できます。

記事DBは、教育現場で使えるように、従来の記事（文字）だけの表示から新たに「記事切り抜き機能」を付け加え、検索でたどり着いた記事を、見出し、写真、地図など紙面そのままに切り抜いた形で、印刷できるようにしました。中日新聞日曜版で好評をいただいている「サンデー版大図解」も、紙面そのままにDBから取り出せます。

あらゆるジャンルから

記事DBの第一の利便性は、膨大な収録記事から目的の記事を選べることです。先生が授業で使う新聞記事を探すときは、一般に紙の新聞では1カ月分ぐらいの保存が必要です。事前に切り抜いて保存してなければ、目的の記事を探し出すにもかなりの手間と時間がかかると思います。授業で多忙な中、せっかく新聞活用をしようとしても、できないことがあるのではないでしょうか。記事DBでは最長25年間まで、指示期間のすべての紙面から目的の記事を数秒で探し出すことができます。政治、経済、社会、文化、スポーツなどあらゆるジャンルの中日新聞と東京新聞の最終版には、約420万件の記事が収録されています。中には紙の新聞では通常、見ることのできない全地方版（中日新聞約80面、東京新聞約30面）の記事も入っています。したがって、一つのテーマについて全域の記事から探すこともできます。このように網羅性、蓄積性に優れていて、いろんな学習に合わせて使える“生きた教材”として記事を探し出せます。記事DBには日々約800件、月間約12,000件、年間約140,000件の新しい記事が自動追加されます。

教科、単元に即し素早く

第二の利便性は「キーワード検索」で学習テーマに関連する記事を素早く探し出せることです。モデル校で試行利用していただいた例を紹介します。小5、道徳、「生命尊重」の単元では、「はだしのゲン」で検索して「ゲンは被爆の生き証人」の記事を教室で配布。戦争の恐ろしさを伝えることができました。中1、社会、「日本の広さを調べよう」の単元では、「北方領土」のキーワードで検索、「ロシア大統領北方領土訪問」の記事が、タイムリーな話題で理解しやすかったと好評でした。小5、国語「インスタント食品と私たちの生活」については、「インスタント食品」で検索し、「自然食品の味覚養って」の記事を配布。インスタント食品の便利さ、自然食の大切さについて理解、ディベートの参考資料にもなりました。中3、社会「市町村合併と地域づくり」では「市町村合併○○市」で検索した「尾張平成の大合併」の記事が、「この地域がなぜ合併したかよく分かった」と好評でした。

絞り込みで目的記事を

特定のテーマについても社説や連載を時系列で一覧することができます。例えば「学習指導要領」や「沖縄基地問題　社説」「生きもの地球会議」で検索すれば、過去に掲載された関連する社説や連載が一度にまとめて見ることができます。

複数のキーワードを組み合わせて検索すると、

目的の記事を自在に絞り込めます。例えば、複数のキーワードの両方が入っている（A かつ B の条件）記事を簡単に見つけられます。逆に複数の言葉のいずれか（A または B の条件）が入っている記事を見つけることも可能です。前者の例では「遺跡　○○市」（AND 検索）と複数キーワードで検索すれば、「○○市の遺跡」に関する記事だけが、後者の例では「自動車貿易　エコカー」（OR 検索）と、複数キーワードを入れると自動車貿易とエコカーという言葉のどちらかが入った記事すべてを探し出せます。「遺伝子組み換え　賛成」「遺伝子組み換え　反対」（AND 検索）では賛成、反対の両方の記事を 2 回の操作で探し出せます。紙の新聞の場合は過去の新聞を保存することも大変ですが、それ以上に複数のテーマを組み合わせて探すには、手間がかかることは言うまでもありません。

このように記事 DB は、教科、単元に即したテーマで「キーワード検索」すると、▽時系列▽一覧性▽タイムリー▽話題性▽地域性▽比較・対論－といった面から、学習の教材になる新聞記事が簡単に取り出せます。

見つけたあとは多様に

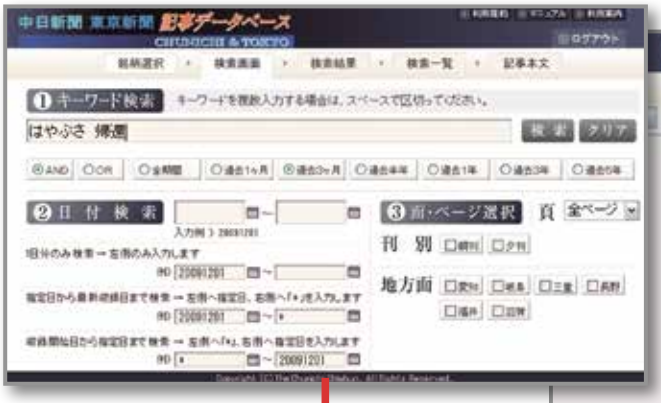
キーワード検索で目的の記事が見つかった後は、いろいろな形で使えます。まず、記事テキスト（文字のみ）か、切り抜きイメージを選択して、画面表示します。記事テキストは文字ですので必要であればコピー＆ペーストができ、文章への挿入などに便利です（出典、引用を明記）。一方、切り抜きイメージは、見出し、写真、記事、図など紙面をそのまま切り抜いた形で画面表示し、カラー印刷（右ページ下、見本）できますので、学習資料としての効果は大きいと思います。画面は縮小、拡大も自由で、印刷してワークシートを作成し、教室内で配布できます。

画面の PDF 保存可能

データは標準的形式 PDF になっていますので、画面から手元のパソコンや USB に保存することもできます。学習資料作成に時間がないときは、まず使えるかな？と思った記事を保存しておき、後でそこから選んで印刷すれば、再度検索から始める手間が省けます。

学校の ICT 化に伴い、PDF データを使ってそのまま大型ディスプレーに写し出して、「帰りの会」や「新聞を読んで」の授業で使っている例もあります。DB のデータは紙の新聞に比較して長期間、保存しても劣化せず、目的に応じていろんな使い方ができるのも特徴です。

〈記事検索画面〉



〈切り抜きイメージ画面〉

サンデー版 大図解（DB）

学校向け「新聞記事 DB」のメーンメニューには、別刷りの「サンデー版、大図解」（以下大図解）も入っていますので、記事 DB と併せて使っていただけます。

大図解は 2000 年から現在まで 10 年間に掲載された約 600 件を収録し、毎週新しく掲載されたものが追加されます。検索は簡単なインデックス検索方式で 10 ジャンル（世界の動き、国内・政治・経済、歴史、科学、自然環境、くらし、文化・教育食、健康・医療・スポーツなど）と各ジャンル配下のタイトル一覧から選べます。

大図解シリーズは各テーマ別に広く、詳しく、やさしく図を使って説明してありますので、補助教材として使っていただけます。選択した大図解は画面で閲覧、必要に応じてグラフや図など、全体を A3 サイズで印刷できます。また 4 分割印刷（ポスター印刷）したものを貼り合わせれば、実際の紙面（A1 サイズ）に復元して教室に掲示できます。

このほかパソコンに接続した大型スクリーンに直接、映し出して使うこともできます。

下ページの利用例をご参照ください。

〈サンデー版　大図解検索画面〉

〈サンデー版 大図解　印刷見本〉

新聞活用学習

新聞切り抜きで、ゆるキャラ情報ゲット

三重県志摩市立国府小学校　中北　好美

1．ねらい

○新聞を使ってテーマの追究に必要な情報を幅広く集め、視野を広げる。
○集めた記事を切り抜き作品にまとめ、構成力や表現力を身につける。

2．関連

①テーマを設定して課題解決学習、タイムリーで幅広い情報の収集…総合
②記事の読み取り、作品のレイアウトや構成…国語・図工
③出来上がった作品の発表会…学活・道徳

3．活動を始める前に

①先生も、新聞を開いてみましょう。気に入った記事や写真、興味の持てる記事に、きっと出合えるはず。
②「総合」のテーマ決定には、時間をかけましょう。期間限定や地域限定のタイムリーなテーマがおもしろい。テーマに関係のある記事が新聞にはたくさんあります。

4．活動の流れ①

好きなテーマで	クラスに共通のテーマで
○サッカー　○野球　○生き物　○皆既日食 ○花　○料理　○環境　○身近な地域の記事など （好きなテーマで新聞切り抜き） 	●地域のイベントで、手づくりのおみやげを販売しよう。 ▼ ●キャラクターで、アピールしよう。 ゆるキャラ大集合 ●キャラクターで、アピールしよう。 共通のテーマで新聞切り抜き

5．活動の流れ②（ゆるキャラ研究）

集めた記事を読みあい、ゆるキャラの人気のヒミツを探る。その結果わかったことは？

6．活動の流れ③（ゆるキャラをつくろう）

地域のシンボル「カエル」や「夫婦岩」を取り入れた「ゆるキャラ」を考え、みんなで投票して決定。かわいい名前も考えた。

ひなぴょん
（カエルのおひなさまだから）

ピョンC
（４Cのカエルだから）

ゆるキャラ人気投票

7．活動の流れ④（新聞切り抜き作品にまとめる）

切り抜き作品づくりに取り組んで、
読めなかった漢字も読めるようになったし、
考える力もつきました。
レイアウトを考えるとき、ななめ置きや
重なりを工夫しました。
ゆるキャラの人気のヒミツや問題点など、
いろいろわかって楽しかったです。

ゆるキャラ大好き

新聞活用学習

学んだ言葉大切に 表現力をはぐくむ

岐阜県垂井町立合原小学校　松岡　裕二

1.　教科と関連させた「新聞切り抜き作品作り」の実践

新学習指導要領では、「言語活動の充実」が挙げられています。各教科で学んだ言葉を大切にし、感じ取ったことを言葉で表したり、自分の考えを論述したりして思考力・判断力・表現力がはぐくまれます。

そこで、社会科と理科の言語活動としての「新聞切り抜き壁新聞作り（私の授業ではこういっています）」を位置付けて実践しました。以下、具体的に実践を述べます。

2.　4年生 社会科「ごみのしょ理と利用」(東京書籍)

中学年の社会科は、「ごみ」や「水」「伝統工業」といった自分たちの生活や地域とかかわる教材が多い。そこで、1年間の単元を見通して、収集する新聞記事を4月から児童に伝え、「新聞切り抜きボックス」を教室に設置しました。多くの先生方が記事を授業に活用できない理由として、その単元に合うようなタイムリーな記事が見つからないことや、作品作りに膨大な時間がかかることが挙げられます。しかし、単元の指導計画を立てる過程で、新聞記事を活用できる単元を位置付け、児童が自分でみつけた記事を資料として活用したり、ごみや水といった問題が自分の生活や身近な地域とかかわりがあることを記事から気づかせたりすることができます。

4年生の児童が作成した新聞切り抜き壁新聞

壁新聞作り　どう発表

新聞づくりで一番大切なことは、子どもたちに単元の出口で「新聞切り抜き壁新聞作り」をすることや、それをどこでどのように発表するのかを明らかにすることです。そうすることで、児童が単元全体の見通しをもち、毎時間の学習が「新聞切り抜き壁新聞づくり」につながっていくことになります。

「ごみのしょ理と利用」では、毎時間、5分間学習を行い、集めた記事からクリーン活動や環境に関する記事を探し、導入としての記事の役割を

位置付けていきました。子どもたちは、クリーン活動の記事が多いことや、「家庭ごみ不法投棄」の記事から「一番、ポイ捨てをしているのは大人」という意見が出るなど、問題意識をもって取り組むことができました。

この教材では、地域のクリーンセンターで取材したことや役場で調べたごみの量をグラフとして表したり、ごみ袋が10月から値上がりするという問題から、ゴミ減量化を訴えたりし、「新聞切り抜き壁新聞作り」の目的や読者意識を明確にもたせていきました。

3.　5年生 理科「台風と天気の変化」(東京書籍)

5年生の理科は、「天気」や「台風」など教科書の中にも記事を活用することができるように位置付けられています。特に、天気予報図や台風などは、調べ学習にも活用でき記事を有効に活用できます。

新聞作りの必然性も

台風や豪雨などの被害の記事を事前に集めることによって、本教材の導入や台風の被害などの具体的な場面でも活用できます。2010年度は、7月に起きた岐阜県の豪雨の記事や、2009年度は伊勢湾台風からちょうど50年という節目の年であったため、特集記事を収集し授業に活用していくことができました。

この単元の言語活動は、「伊勢湾台風から50年」というテーマで「新聞切り抜き壁新聞作り」を位置付けました。社会科のところでも記述しましたが、ごみ袋値上げの年や伊勢湾50年という節目にあたる年には、関連記事も多く、新聞を作って訴える必然性も生まれてきます。なぜ新聞づくりをするのか、この課題の必然性が大切になってきます。そこで、この単元の導入に8月～9月の新聞を集め、伊勢湾台風の関連記事の切り抜きをしました。教師から新聞記事を提示するばかりでなく、子どもたち自身で記事から調べる時間を設けることによって興味関心につながっていきます。台風に関する記事は、この1時間で20枚以上切り抜くことができました。

班ごとに単元の出口で

こうして、単元の出口で班ごとに「新聞切り抜き壁新聞作り」をしました。今まで学習したノートのまとめや、伊勢湾台風について調べてきたり聞いてきたりしたことを新聞形式にまとめていきました。このように、教科と関連させることで、毎時間のまとめや学習したノートをみながら「新聞切り抜き壁新聞」の記事を書くことができます。子どもたちはそれぞれ、画用紙に新聞記事を貼り、伊勢湾台風の進路を確かめ、台風のことを語り継ぐことが自分たちの責任だという見出しを付けながら、学習したことをまとめることができました。

新聞切り抜き作品作りの意義

'94年に取り組み開始

「探求力生かせた」「社会見る目鋭く」「伝えたい思い凝縮」「身近な視線大切」―これはかつて、中日新聞が新聞切り抜き作品の入賞者を紹介した特集ページの見出しです。本社は1994年から本格的にNIE（教育に新聞を）に取り組み、学校での新聞教育活動を支援してきました。その取り組みの大きな柱が「新聞切り抜き作品コンクール」です。2012年度で18回目の募集になりました。始めた当初、作品の応募点数は2000点弱でしたが、いまでは8000点を超え、作品のレベルも格段に向上しました。徐々にですが、コンクールの趣旨や意義が認められている証しではないかと思っています。

まずテーマを絞ろう

新聞切り抜き作品作りは、中日新聞社が独自に企画した学習方法です。コンクールの募集は、初め小中学生が対象でした。それを00年度から高校生にも対象を広げ、04年度からはファミリーの部を設けました。親子で切り抜き作品作りに挑戦してもらい、家族でコミュニケーションを図りながら共同製作することによって「絆」を深めてほしいという狙いです。将来的には、生涯学習を念頭に置いて、子どもからお年寄りまで、より幅広い年齢層を対象にコンクールが開催できるといいと考えています。

作品の作り方は、簡単にいうと、まず新聞を読み、テーマを決めて関係した記事を切り抜きます。それに見出しを付け、レイアウトをしながら模造紙（B紙）に貼りつけ、製作者の意見や感想を書き込んで新たな「新聞」の形に再構成するのです。「新聞の記事を使って新聞を作る」と考えていただくと、少しイメージが湧くかもしれません。学校では、先生の「指導」という「受け身」の授業展開になりがちですが、この作品作りは子どもたちが新聞で「自ら課題を見つけ、解決する学習」といえます。「新聞活用」の手法としては、極めて優れた方法です。

「社会性」が身につく

その理由は、子どもたちが新聞を通じて社会に関心を持ち「社会性などを身につけもらうのに効果がある」と考えているからです。子どもたちが学校を卒業して社会人になったとき、大人と対等にコミュニケーションができ、迷うことのない成人になることを願っているのです。これは、文部科学省が教育で目指している「生きる力」を育むことにもつながります。

作品は、新聞を読まないと作れません。いろいろな記事を読みますから、知らず知らずのうちに文章の内容を読み解く「読解力」が身に付くでしょう。漢字力、文章力も向上します。作品の構成を

考えデザインしますから「デザイン力」や「創造力」が高まるでしょう。もっと大切なことは、自分で決めたテーマにそって記事を探していく過程で、自らの課題を見つけ解決する力を養うことにもなります。

当初、この作品作りは「小学生には難しいのではないか」という声がありましたが、写真を中心にした「秋みーつけた」や「新聞すごろく」「新聞かるた」など、現場の先生の創意と工夫で、小学校低学年でも指導の方法次第でできることが分かりました。小学校高学年や中・高校生になると、自主的に社会問題や政治、国際問題などと取り組み、情報を読み解く力「メディアリテラシー」を育む有益な機会にもなっていて、多くの先生の共感を得ています。

学校ぐるみの参加も

教育界全体から見ればまだ、作品作りの実践が十分に広がって認知されているとはいえませんが、豊橋市立青陵中学校などでは理解のある保護者にも恵まれて、全校生徒による作品作りを続けています。3回目のコンクールから今日まで、社会科の先生全員の指導で作品作りが続いて、大きな成果を上げています。今後、こうした学校が次々に出てくることを期待しています。中学生や高校生には、青陵中学校生のように「ニュースから事実をつかむ。ニュースの背景を知る。社説やコラムで考え方を知る。意見欄で読者の関心度や考えを知る」ことを指導したいものです。

生涯学習の教材にも

新聞は「生涯学習」の教材にもなります。小さい時から新聞に親しむ環境作りが大切だと考えています。切り抜き作品作りは、新聞を継続して読み、幅広く紙面に目を通さなければなりません。着眼力・構成力・伝達力が必要で、学習指導要領が求めているものを備えた指導法ともいえます。

作り方の手順、ポイントはどこに置いたらいいのか。初めて取り組む先生や子どもたちは、戸惑うようです。まず、新聞のスクラップが基本になります。単なるスクラップ作りではありません。新聞記事を使った自分新聞作りです。テーマを決めて記事を集め、読み解き、自分の考えまとめ、B紙1枚にレイアウトして発信する勉強です。ですから「1日10分間の新聞読み」からのスタートです。子どもが興味を持って取り組めるテーマを探させるのです。低学年では写真から始めると、とっつきやすいでしょう。テーマは、内容が一目でわかるように、短い言葉でズバリ表現させるとよいと思います。

作品作りには、最後までやり遂げる「忍耐力」が必要ですし、長年の経験から1年だけでなく2年、3年と継続して取り組むことが、大きな成果につながると感じています。

新聞切り抜き作品教室で作品作りをする親子
(写真はいずれも中日新聞社で)

切り抜き作品の募集要項

新聞で新聞を作ろう

中日新聞社が「新聞切り抜き作品コンクール」の募集を始めて丸17年になります。初めは、小、中学生が対象で、7回目から高校生も加わりました。ファミリーの部も「親子で作って心の触れ合いを」と11回目に新設しました。中部9県の県教育委員会と名古屋市の教育委員会の後援です。募集要項は次の通りです。

新聞切り抜き作品コンクール

中日新聞社は、中部9県の小中高校生を対象に、新聞記事を切り抜き、模造紙（B紙）に新聞のように再構成して編集した作品を募集します。

主催	中日新聞社
後援	愛知、岐阜、三重、静岡、長野、滋賀、福井、石川、富山の各県教育委員会と名古屋市教育委員会
作品	自分でテーマを決め、テーマにそった新聞記事を集める。 ●レイアウトを考え、切り抜いた記事を配置する。見出しや説明を付けて、内容が一目でわかるように工夫し、台紙（模造紙・B紙約80センチ×110センチ）にはる。 ●個々の記事に対する考えのほかに、まとめの意見や感想を書く。 ●台紙に裏打ち（紙テープで補強）し破れないようにする。 ●記事を重ねてはるなど立体的な構成にしない。 ●送付の際は丸めずに四つ折りで。
応募	個人かグループ（1作品3人以内）
切り抜きに使う新聞	中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井、中日スポーツのほか、家庭で購読している新聞。雑誌の記事や写真は使わない。
締め切り	毎年1月10日ごろ
応募方法	作品の裏面右下に、作品名、学校名、郵便番号、学校所在地、電話番号、学年、児童・生徒名、指導の先生名を記入。個人応募する場合は、自宅住所、郵便番号、電話番号も書く。作品は原則として返却しない。
送り先	〒460-8511　名古屋市中区三の丸一丁目6-1 中日新聞社新聞切り抜き作品コンクール係 電話：052-221-1047 FAX：052-221-0857
表彰	中日大賞、優秀賞、入選、佳作、努力賞のほか、応募者全員に参加賞を贈る。
紙面発表	2月中旬に中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井の各紙面で発表の予定。入賞した児童・生徒と指導の先生を表彰する。
作り方	中日新聞のNIEホームページ http://www.chunichi.co.jp/nie/ の「新聞切り抜き作品づくり」というコーナーに説明がある。
講師派遣	作品の作り方など詳しく知りたい学校には、講師を派遣する。
※お断り	応募作品や入賞者名簿、写真などは、新聞、電子媒体に掲載することがあります。

新聞切り抜き作品コンクール ファミリーの部

家族で一緒に挑戦してみよう。中日新聞社は、新聞切り抜き作品コンクール第8回ファミリーの部の作品を募ります。

主催	中日新聞社
後援	愛知、岐阜、三重、静岡、長野、滋賀、福井、石川、富山の各県教育委員会と名古屋市教育委員会
対象	中部9県の小学生と、その家族
作品	家族で決めたテーマにそって、集めた新聞記事の切り抜きを1枚の模造紙（約80センチ×110センチ）に、のり付けして作る。見出しや説明をつけ、一目で内容が分かるようにレイアウトし、意見や感想を書き込む。記事を重ねるなど立体的構成にしてはいけない。家族で作ったというイメージが作品のポイントになる
切り抜きに使う新聞	中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井、中日スポーツのほか、家庭で購読している新聞。雑誌の記事や写真は使わない。
締め切り	毎年1月10日ごろ
応募方法	作品名、共同製作した子と親・祖父母の名前、住所、郵便・電話番号（あればファクス番号も）、学校名、学年を作品の裏面右下に書く。送付の際は丸めずに四つ折りで。作品は原則として返却しません。
送り先	〒460-8511　名古屋市中区三の丸一丁目6-1 中日新聞社新聞切り抜き作品コンクールファミリーの部係 電話：052-221-1047 FAX：052-221-0857
表彰	中日大賞1点、優秀賞2点、入選、佳作、努力賞を選ぶ。2月中旬に、中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井の各紙上で発表し、作品を作った家族に賞状と記念品を贈る。
作り方	中日新聞NIEホームページ http://www.chunichi.co.jp/nie/ の「新聞切り抜き作品づくり」というコーナーに説明があります。
※お断り	応募作品や入賞者名簿、写真などは、新聞、電子媒体に掲載することがあります。

新聞活用学習

新聞学習カリキュラム

中日新聞社には「新聞学習カリキュラム」の小学校編と中学校編の冊子があります。2007年から順次、1万部ずつ発刊しましたが、既に初版は保存資料分しか残っていません。09年秋に小学校編を5000部、中学校編も11年春に5000部増版という、いわばベストセラーです。

冊子の発刊は「NIEをどう活用、展開したらいいのか？　カリキュラムがほしい」という、現場の先生の切実な願いを耳にしたのがきっかけ。過去に学校で新聞を活用する実践事例はいくつもありましたが「新聞学習カリキュラム」として、教科を越え体系的にまとめたものは、目にしたことがありません。

本社NIE事務局でも、小、中、高校の先生に実践事例の原稿を書いていただき「先生が作った新聞事例集」として過去に冊子を発行していました。1万部を印刷、中部9県内の学校や、興味のある先生に無料配布しました。事例集作りはいま中断していますが、実践事例は本社のNIEネットで公開していますので、ご覧ください。

中日新聞がカリキュラム発刊を計画した当時は、教育学部系の大学教授が中心になって「日本NIE学会」を設立し、理論化と体系化を図ろうと、動きだしたばかり。ですから日本にはまだ、系統的なNIEカリキュラムは存在しなかったといえるでしょう。

そうした状況下で、後先も考えず小、中、高校のカリキュラム作成に踏み切ったのです。06年5月、小学校編のNIEカリキュラム編成委員会を立ち上げました。小学校の先生や本社NIEコーディネーターに参加いただき、子どもの発達段階に合わせたカリキュラムを作りました。

「新聞学習の目標をどこに置くのか」で、当初から壁にぶつかりましたが、激論の末「新聞で今を知り、考え、未来を拓（ひら）く人間の育成」と決まり、動き出しました。

内容は、成長段階に合わせてどのように新聞活用をしたらいいかも議論になり、小学低学年、中学年、高学年に分けて「親しむ」「読む・知る」「考える」「発信する」と、段階的に高める構成にしました。活用法は高学年で高レベルの事例が出てきて、中学、高校生でも十分活用できる中身です。

中学校編は、翌年の07年5月に作成委員会を立ち上げ、新聞学習をひとつの「教科」と想定したカリキュラムを目指しました。委員には、やはり中学、高校の先生とコーディネーターの協力を要請。小学校編を踏まえて作ることになり、新聞の特色を生かした構想図をまとめてあります。

具体的な内容は、文章、見出し、写真、図、マンガ、広告、全般の6項目に分け教材化を図りました。「知る」「読み解く」「考える」「発信する」という学習段階を踏まえ、事実把握から始め「関連思考」「価値判断」「自己表現」へと認識を深めて行く構成です。ただ、中学校編は小学校編とは違い、学年別の考え方をやめ、認識の深化に視点を置き、どこからでも活用できます。内容は、小学校高学年や高校でも活用できる中身です。

新聞を学習の資料として使う先生は、戦前からいました。いまでも結構いると思います。それは「教材の一部」としての活用の仕方でした。でも、これからは「教科のひとつ」というくらいの認識と展開が求められてもおかしくないでしょう。

というのは「言語能力の低下、希薄な社会的関心」という教育的な社会背景が存在します。児童、生徒の社会的関心を呼び起こすには「今」を伝える新聞が最適です。「教科」「選択教科」に新聞学習が入る余地はありませんが、この時代にカリキュラムの形で提示した意義は大きいと思います。

文部科学省も学習指導要領を改訂、教科書の内容を小学校で11年4月から一新し、12年に中学校、13年に高校と、順次更新します。小学校の教科書には「新聞を作ってみよう」「新聞記者になろう」などが登場しました。中学、高校でも新聞学習内容が何らかの形で取り込まれると推定されます。

新聞学習カリキュラムは、NIEの授業を進めるひとつのモデルとして作成しました。後は、先生が、授業にどう生かしてくださるか、にかかっています。

小学校（高学年）総合的な学習

地域の人を取材し記事に
―インタビューをまとめてみよう―

愛知県豊橋市立飯村小学校　小野　浩史

1　単元名

インタビューの技を学ぼう
―総合新聞のレベルアップを目ざして―

2　単元のねらい

・効果的なインタビューの方法を理解し、地域の人や学校の人を取材し、分かりやすくインタビュー記事にまとめる。

3　学習計画

インタビューの体験を振り返ってみよう（1 時間）
・これまでの体験を振り返り、気づいたことを話し合う。

効果的なインタビューの仕方や記事の書き方を学ぼう（1 時間、本時）
・プロの記者にインタビューの仕方を学ぶ。インタビューの準備をしよう（1 時間）
・学んだことをもとにインタビューの内容や役割分担を決め、練習をする。

ふれあい活動の人物にインタビューをしよう（1 時間）
・グループごとに総合的な学習でふれあっている地域の人にインタビューをする。

インタビュー記事にまとめて発信しよう（2 時間）
・インタビューの内容を整理し、インタビュー記事にまとめ情報発信する。

4　新聞学習「効果的なインタビューの仕方や記事の書き方を学ぼう」

(1)　ねらい
・プロの記者に学び、効果的なインタビューのポイントや記事の書き方を理解すること。

(2)　学習活動

時間	学習時間　※子どもへの支援・願い　◆評価	
3	効果的なインタビューの方法や書き方を学ぼう	
	1．学習のめあてを確認する。 ・以前の「ふれあい活動」で取材した時、工夫したことを簡単に発表する。	※中日新聞の記者を紹介し、学習への意欲を喚起する。
20	プロの記者をインタビューしちゃおう	
	2．インタビューのポイントをつかむ。 ・新聞記者を子どもたちの代表グループが取材する。 ・取材の良かったところやもっと工夫できるところを話し合ったり、記者に教えてもらう。	※事前に質問内容や役割分担を考えさせておく。 ※代表グループのインタビューの仕方のよい点やもっと工夫したい点をワークシートにメモしながら聞くよう指示する。
	インタビュー記事ってどう書くの？	
	3．インタビュー記事の特徴をつかむ。 ・インタビューした理由や簡単な説明が書いてある。 ・質問は短く書いてある。 ・話したとおりではなく、要点をまとめて書いてある。	※中日新聞のインタビュー記事とこれまでに自分たちが作成した記事とを比べさせることで、インタビュー記事の特徴をとらえさせるようにする。 ※記事の特徴をとらえやすくするため、形式，内容等観点別に整理して板書する。

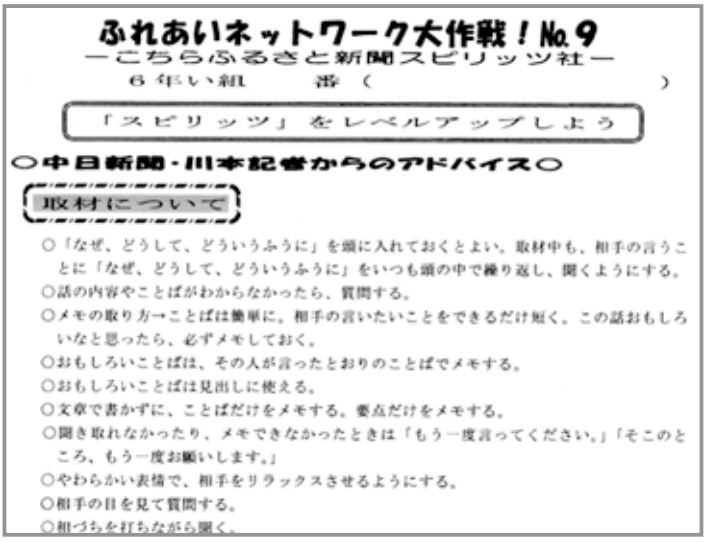
30	**プロの記者に教えてもらおう** ・記者のインタビュー記事の書き方、ポイントについての話を聞く。 ※記者にお礼の言葉を述べ、担当班には全員で拍手をおくり励ます。 **よりよい総合新聞を作っていこう**
40	4．ポートフォリオに本時の感想を書く。

（3） 子どもの反応

A児：ぼくは、いつも準備していた質問をするだけだったけど、記者が教えてくれたようにいつも「なぜ、どうして、どういうふうに」って考えながら聞き、もっとくわしいインタビューができるようになりたいと思いました。

K児：わたしは、メモが気になって全部メモしようとしていたけど、必要なことだけメモすればいいことがわかりました。それと、相づちを打ちながら聞くと相手がいっぱい話してくれることもわかったので、これから使っていきたいです。

5　資料　ワークシート



ふれあいネットワーク大作戦！No.9
―こちらふるさと新聞スピリッツ社―
6年い組　　番（　　）

「スピリッツ」をレベルアップしよう

○中日新聞・川本記者からのアドバイス○

取材について

○「なぜ、どうして、どういうふうに」を頭に入れておくとよい。取材中も、相手の言うことに「なぜ、どうして、どういうふうに」をいつも頭の中で繰り返し、聞くようにする。
○話の内容やことばがわからなかったら、質問する。
○メモの取り方→ことばは簡単に。相手の言いたいことをできるだけ短く。この話おもしろいなと思ったら、必ずメモしておく。
○おもしろいことばは、その人が言ったとおりのことばでメモする。
○おもしろいことばは見出しに使える。
○文章で書かずに、ことばだけをメモする。要点だけをメモする。
○聞き取れなかったり、メモできなかったときは「もう一度言ってください。」「そこのところ、もう一度お願いします。」
○やわらかい表情で、相手をリラックスさせるようにする。
○相手の目を見て質問する。
○相づちを打ちながら聞く。

丸栄卓下から独立
豊橋丸栄1日再出発
加古守社長に聞く
地域百貨店のモデルに
目標は先発ローテ

6　関連教科・領域等

「インタビュー名人になろう」
（国語：5年生・光村図書）
「聞き合おう、みんなのたからもの」
（国語：2年生・東京書籍）
「報告します、みんなの生活」
（国語：4年生・東京書籍）

※そのほか、生活科、総合的な学習、社会科などで、調査活動や聞き取り調査などを行う前に実践すると効果的です。

教科と関連させた「学級新聞作り」

岐阜県垂井町立合原小学校　松岡　裕二

1．系統性を持たせ

2011年度の学習指導要領の完全実施では、教科の内容や時間数の増加によって、「学級新聞作り」を位置付ける時間がないという声をよく聞きます。しかし、4年生の光村図書の教科書には「新聞のとくちょうと作り方を知ろう」、5年生では、「新聞の編集のしかたや記事の書き方に目を向けよう」と新聞づくりや新聞の記事が教材として位置付けられています。こうした単元と学級づくりとを関連させて、学級経営の柱に「学級新聞」を位置付けることによって、子どもたちに、学級新聞としての言語活動を通して思考力・判断力・表現力を身につけさせることができると考えました。

10年度は、教務主任の立場で、担任と連携をし、教科や特別活動と関連させた「合原新聞作り」を3年生以上の学年に位置付けました。4月にNIEコーディネーターの講師から、新聞作りの基本を指導していただきました。X型に割り付けすることや、見出しは、10文字前後にするなどの具体的な新聞の作り方を教えていただきました。

以下、学年の発達段階に応じ系統性を考えた「学級新聞づくり」の実践を紹介します。

2．教科と関連させて

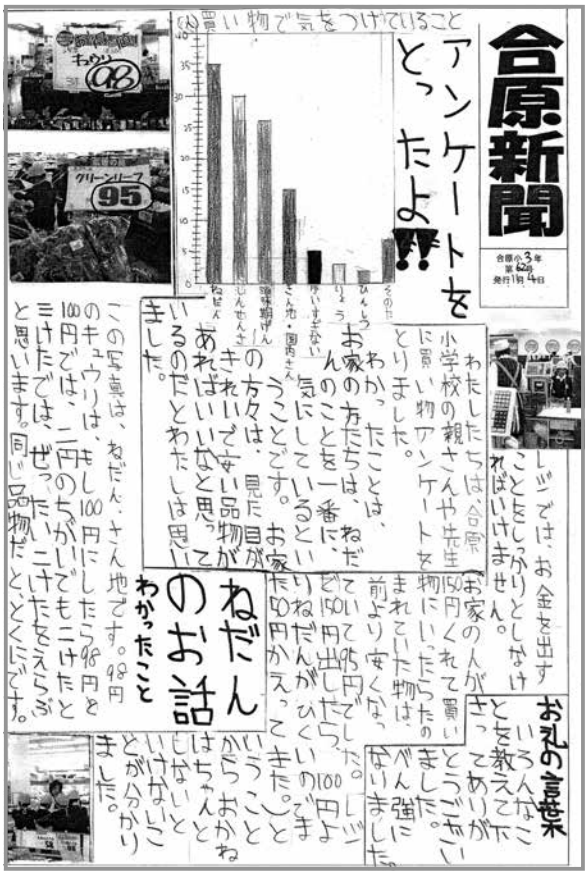
3年生は、社会科（東京書籍）の「店ではたらく人」の単元で、お店の見学や取材をしました。算数（東京書籍）の「ぼうグラフと表」の学習と関連させて、取材したことをお店の店長に伝えようという学習課題を位置付け、取材結果を棒グラフに表し「合原新聞」にまとめました。（**新聞1**）

4年生は、社会科（東京書籍）の「住みよいくらしをつくる」の単元で、クリーンセンターや上水道の見学をしました。こうした単元と国語（光村図書）の「新聞をつくろう」の学習とを関連させて、お礼の新聞作りをしました。中学年では、地域の施設や資料館などを取材したり見学したりする学習が多いため、取材後には、必ず、学んだことを「合原新聞」にまとめ、見学先に送りました。そうすることで、子どもたちは、お世話になった方に新聞を届けるという情報を伝える意識が明確になり、新聞づくりが必然性のある国語の学習につながりました。（**新聞2**）

5年生では、集団宿泊的行事と新聞作りを関連させ、下学年や保護者に伝えるという目的意識を明確にしました。下学年に伝えるときは、来年度の宿泊研修のアドバイスを中心にすることや、保護者に伝えるときは、活動の様子を分かりやすく伝えるということなど、相手に応じて伝える内容を変えていきました。（**新聞3**）

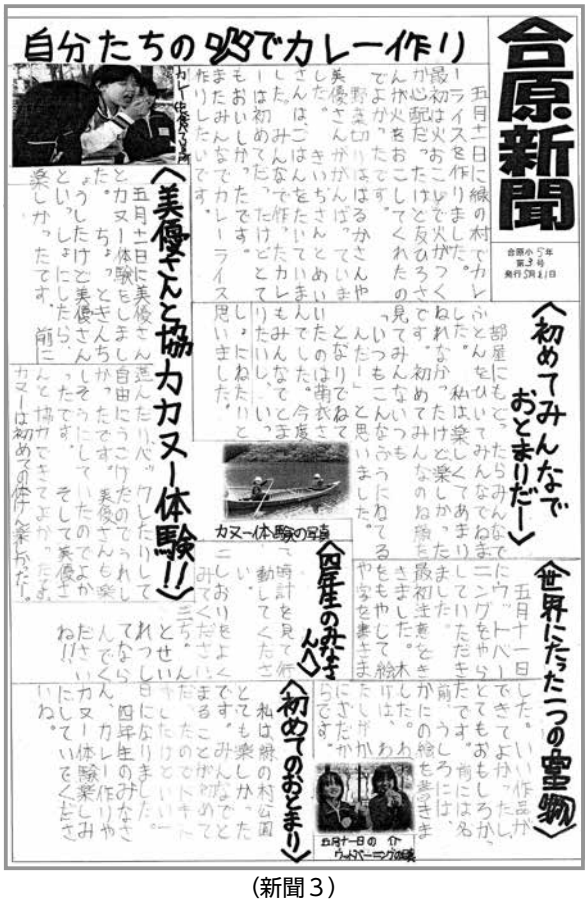
6年生は、国語（光村図書）の「平和のとりでを築く」の教材で、単元の出口の言語活動として「平和新聞」を位置付けました。新聞記事や本を資料として、「平和の尊さ」を保護者に訴える授業をしました。この単元は11月の教材でしたが、戦争や原爆などの記事は7月、8月に集中しているため、各社の新聞を集めておき、子どもたちが、自分で資料を選択するようにしました。「長崎、広島でオリンピック開催」の記事や杉山千代子さんの記事などを資料として「平和の尊さ」を訴えることができました。（**新聞4**）

このように単元の言語活動を明確にし、単元構成を仕組むことで、新聞にまとめる目的意識や相手意識を明らかにすることができます。子どもたちが、言語活動としての新聞作りに自信をもち、情報を発信する力がついてきました。



（新聞１）

（新聞２）



（新聞３）

（新聞４）

新聞作りこうして

愛知県安城市立安城中部小学校　小野内博史

ねらい：　新聞記事を書くことを通して、適切な情報を収集し、整理したり、自分が伝えたいことをまとめたりする力を身につける。

新聞記事は、さまざまな情報を多くの人に知らせる目的で書かれています。取材をもとに必要な情報を、限られた字数で、分かりやすくはっきりと伝えるための工夫がされています。身近な新聞を参考に、取材活動をして記事を書いてみましょう。

●記事がどのように書かれているか調べてみよう

身近なできごとを新聞記事ではどのように表現しているでしょうか。学校での行事の様子を紹介した記事を例に調べてみましょう。学校行事の記事は、コンパクトにまとめられており、題材としてとても扱いやすい。最近の新聞の中から一つを選んで、記事がどのように書かれているか調べてみるとよいでしょう。

【内容を読み取ろう】

この記事を読んで、次の５つのことが書かれているか調べてみましょう。

いつ	29 日
どこで	母校の中学校
だれが	お笑い芸人「響」の小林優介さん
何を	コントを披露
どうした	体育館で生徒や保護者 1300 人を沸かせた 生徒からの質問など

こうした内容が記事には書き込まれています。この他のいくつかの記事を５つの観点から読んでみましょう。

「響」の小林さん　母校で笑いの渦

岡崎・竜海中

岡崎市出身で、テレビ番組などで活躍するお笑い芸人「響」の小林優介さん(31)が二十九日、相方の長友光弘さん(31)と、母校の竜海中学校を訪れ、体育館に詰め掛けた生徒や保護者ら千三百人を沸かせた。

学ラン姿の小林さんと、おかっぱ頭にセーラー服姿の長友さんが登場すると、会場は拍手と歓声に包まれ、おなじみの男女学生にふんしたコントを披露した。生徒からの質問で小林さんは、中学時代に水泳に打ち込んだことに触れ「よく遊び、興味あることに突き進んで」とエールを送った。芸人を目指す二人に、当初は反対した小林さんの母親の姿もあり、「心配掛けた」と感謝を表した。

長友さんをまねる生徒のモノマネ大会や小林さんの歌声も披露された。

生徒の質問に答える「響」の長友光弘さんと小林優介さん＝岡崎市明大寺町の竜海中で

【ほかにどんなことが取り上げられているか】

この記事には、他にどんなことが取り上げられているでしょうか。

- 小林さんが言った言葉が「　」で書かれている。
- 生徒のものまね大会や小林さんの歌声が披露されたこと。
- 小林さんと長友さん、生徒の代表が舞台に上がっている写真が掲載されている。
- 写真の説明と写真をとった場所が書かれている。

このように伝えたいことをまとめ、わかりやすく書かれています。

●学校行事を取材してみよう

自分たちの学校で行われる行事を取り上げて、参加者という立場と、それを取材する立場で参加してみましょう。

【必要な内容を書き出してみよう】

学校の行事を実際に取材してみましょう。何を記事に書かなければいけないかを考えながら取材しましょう。このとき、「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」をまとめておくとよい。

□□小学校では、「親子ふれあいの陶芸教室」が開かれました。そのときのことを記事にするために、メモを作りました。

いつ	1月20日
どこで	□□学校の体育館
だれが	□□小学校の５年生
何を	陶芸
どうした	○○さんから作り方を聞く。 作るものは何でもよい。 ○○さんに焼いてもらう。 うわ薬は、４種類ある。

【インタビューをしてみよう】

行事の主催者や参加者の声を取材し、記事に取り入れることはとても大切なことです。だれに、どんなことを聞いたらいいかを考えて、実際にインタビューをしてみましょう。聞いた内容を正確にメモしたり、必要に応じて録音したりしておきましょう。

この例では、粘土を持って来てくれた○○さん、参加の子ども、保護者、主催した先生などにインタビューするとよいでしょう。

【写真を取り入れよう】

写真を取り入れると、記事をより分かりやすく、読みやすいものにします。何枚か撮影し、伝えたいことが一番、伝わる写真を選びましょう。

●記事を書いてみよう

メモをもとに記事を書いてみましょう。読む人に、よりくわしく様子が伝わる記事にするために、何を書いたらいいか考えましょう。

●記事を読みあって完成させよう

実際に書いた記事を友達同士で読みあってみましょう。同じ行事のことを記事にしても、それぞれで書き方は異なるはずです。伝えたいことが確かに伝わるか、わかりやすい文章になっているか、確かめましょう。わかりにくいところは書き改めましょう。

●見出しを付けたり、写真を取り入れたりしよう

見出しは、短い言葉で表現し、読者を引きつけるように工夫しましょう。記事の中心となることがはっきり伝わるような写真を１枚そえましょう。

＜発展＞

記事は、ワープロを使って書くとレイアウトや修正がしやすくなります。文字数や行数を決め、編集してみましょう。さらにできあがった記事を組み合わせ、１枚の新聞に仕上げてみましょう。どの位置に配置したらいいか工夫が必要です。できたら印刷して配ってみるのもよいでしょう。

親子で楽しく陶芸教室

一月二十日に□□小学校の児童と保護者で陶芸が行われた。陶芸を通して親子のふれあいを深めようという取り組みだ。

粘土を持って来てくれた○○さんが、どうしたらいい作品ができるか説明。作品の種類は、皿、花びん、鉛筆立て、置物などで、人それぞれ作るものは違う。また、くしや鉛筆などを使ってもようをつける人もいた。

参加者の中からは「陶芸が楽しい」という声が多く聞かれた。○○さんは、「今日使った粘土は、三河土といってとても使いやすい、とてもいい作品になる粘土で、約千二百度で焼く」と話してくれた。今回作った作品は、○○さんがうわ薬をかけ焼いてくれる。うわ薬の色は、うすい青、こい青、白、緑の四種類で、作った人の希望で焼いてくれる。

どのような作品ができ上がるか参加者全員が楽しみにしている。

新聞を作ろう

三重県桑名市立深谷小学校　尾関　一夫

学習したことや学校での話題を新聞としてまとめる表現方法は、どこの学校でもよく見られます。しかし、残念ながら新聞としての特徴を捉えないまま、文字を羅列して終わってしまっていることがよくあります。新指導要領のもとでは、どの教科においても表現活動がより重要視されています。そこで、「一般紙」から、記事としての文章の組み立てや見出し、割り付けの仕方などを学び、子どもたちが作る新聞にも生かしていきたいものです。ここでは、取材した後、記事として書く前に、「一般紙」に学ぶ方法についてまとめてみたいと思います。

＜わかりやすく伝えるための工夫を知ろう＞

①一般紙の１面を用意して、どんな工夫があるのかを話し合います。

Ⓐ　タイトル（題字）

新聞の名前ですから、その新聞のイメージを決める大切なものです。書体やデザインに工夫を凝らし、見やすくて読者がわくわくするようなものにできるといいですね。

Ⓑ　トップ記事

一番伝えたい大きなニュースで、大事と判断された記事です。題字のそばにもってくる記事で、その新聞の顔ともいえます。

Ⓒ　主見出しと地紋

見出しの役割としては、つぎの３つがあります。

- **読者の目を引きつける。**
- **ひと目で記事の内容、要点、種類をわからせる。**
- **大きさで、記事の大きさや大切さをわからせる。**

そのための工夫として、10字程度の短い言葉で表すことを基本とします。言葉の強さを出すために「倒置法」がよく用いられます。ことわざを利用して、リズム感を持たせたり、ことわざをもじって使ったりする方法もよく見られ、楽しい工夫につながります。一般紙の記事から見出しを作って発表し合う活動もできるといいでしょう。

文字の後ろに「地紋」とよばれる模様を敷いてみるのも目立たせるための工夫です。イラストが得意な子は、見出しの文字とイラストを組み合わせるとさらに読者を引きつけるものとなります。

文字の字体を袋文字（中抜き文字）にしたり、影付き文字にしたりするテクニックも力強い見出しを書くことにつながるでしょう。そこで字体については、ワークシートを用意して、さまざまな字体の練習をするといいでしょう。字体を工夫し

て自分の名前をデザインし、教室に掲示するのもいいでしょう。

D 脇見出し

主見出しを補足します。主見出しが長くなりそうなときなど２本の見出しにすると力強さが増し、記事のわかりやすさにつながります。

E リード（前文）

トップ記事などの大きな記事では、見出しの後に短い文章が入ります。これが前文といわれるリードです。リードは、記事のおおよその要点を書きます。上下左右にじゅうぶんな余裕をとります。

F 記事

「5W1H」に気をつけて記事を書きます。

「5W1H」とは、「いつ」「だれが」「どこで」「なにを」「なぜ」「どのように」のことです。取材するときからこのことを頭に入れておくことが必要です。「一般紙」の記事（事件事故の記事がわかりやすい）から、「5W1H」を見つけ出す練習をするといいでしょう。

G 写真（イラスト）

一般紙を読むときも、まず目に入ってくるのは写真だと思います。写真やイラストが入ると記事の内容を理解しやすく、情報が伝わりやすくなります。割り付けのときにきちんと配置すれば、見出し以上に効果を発揮します。

H 囲み記事

独立した記事として、ひと味違った情報を載せるときは、線などで囲んだ記事にします。囲み記事は、連載記事のほか、ちょっとした話題など短い記事に多く利用されます。囲み記事があると、紙面に表情や安定感を与えます。

I 広告

広告も一般紙には欠かせないもの。オリジナルの広告を作って載せれば、より本物の新聞の雰囲気が出ることでしょう。

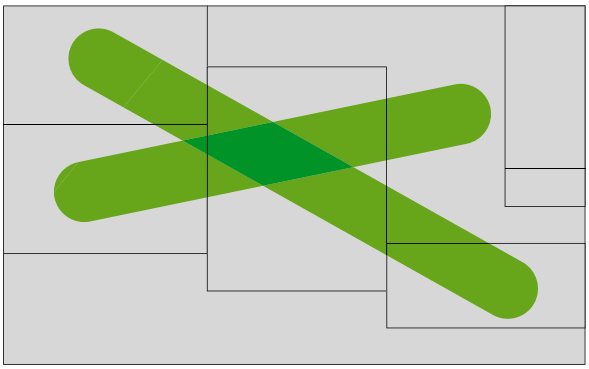
＜割り付けの仕方を学ぼう＞

新聞の紙面を組み立てるのは、記事、見出し、写真、イラスト、表･グラフです。それらを、「面白そうだな」「どこから読もうかな」と思わせるように割り振っていく必要があります。そこで、割り付けの基本ルールをまとめておきます。

○題字の入る場所や大きさを一番初めに決めます。紙面の右上に、縦におくのが普通です。題字の下には、発行日や発行者を書きましょう。

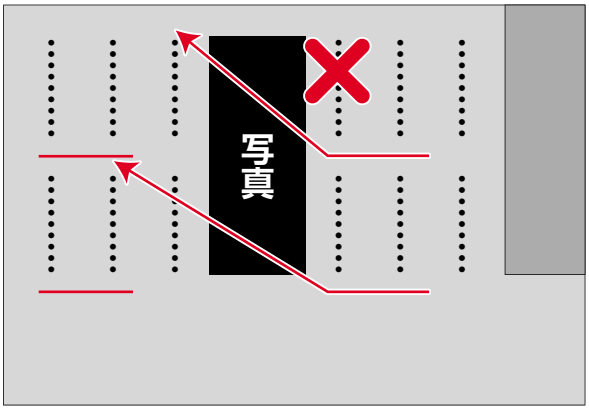
○B4 判の用紙であれば、小学校低学年で５段、小学校中学年から中学生では７段に区切った割り付け用紙を用意します。１行の字数は、10字～12字になります。薄い青色でマス目が付けられている割り付け用紙を用意すると良いでしょう。

○基本となる割り付け方法は、「X 字型」です。人の目の動きにとって自然な、右上から左下に流れるように記事を配列することができます。紙面が読みやすく、見出しや写真・イラストの大小によって変化をつけることもできます。



○見出し、写真・イラストは、紙面の下にいくにしたがって小さくします。

○読みにくい記事の割り付けとして、「飛び越し」**（下図）**とよばれる、写真やイラストを飛び越えて記事が流れている場合がありますが、これは禁じられています。



「新聞ができるまで」

新聞ができるまでには大きく３つの過程を経ます。まずは編集部門。取材し記事を書き、レイアウトをします。次は印刷部門。輪転機で新聞を印刷します。最後は販売部門。新聞の束を梱包（こんぽう）して販売店に運び、各家庭に送り届けます。ほかにも広告や事業などが関わります。

取材部門と整理部門

編集

編集部門は新聞社の中核で、編集局が担当しています。中は取材部門と整理部門に分かれます。取材部門といっても取材先によりさまざまなセクションが設けられています。事件事故から町ダネまで幅広く対応する社会部をはじめ、政界の動きを追う政治部、金融や企業活動を取材する経済部。そのほか家庭に役立つ生活部、テレビ欄と芸能を担当する放送芸能部、文化全般の文化部、スポーツ担当の運動部、カメラの専門家集団の写真部などがあります。

それぞれの部には取材記者が配置されています。新聞記事を書くためには記者が取材対象と接点を持つことがスタートです。社会部の例でみてみましょう。記者の多くは官公署にある記者クラブを足場に、役所の発表や管轄領域の事柄を記事にします。議会の傍聴や定例の記者会見もあります。もちろん庁内を回って独自のニュースも探します。

事件記者は警察署をベースに取材活動しています。パトカーや消防車がサイレンを鳴らして出ると、現場に飛びます。その先には交通事故があったり火災があったり。目撃者の話を集め、捜査状況を聞き出し、自分の目で見た様子をメモにします。現場だけで取材不十分なケースが多く、関連取材は欠かせません。

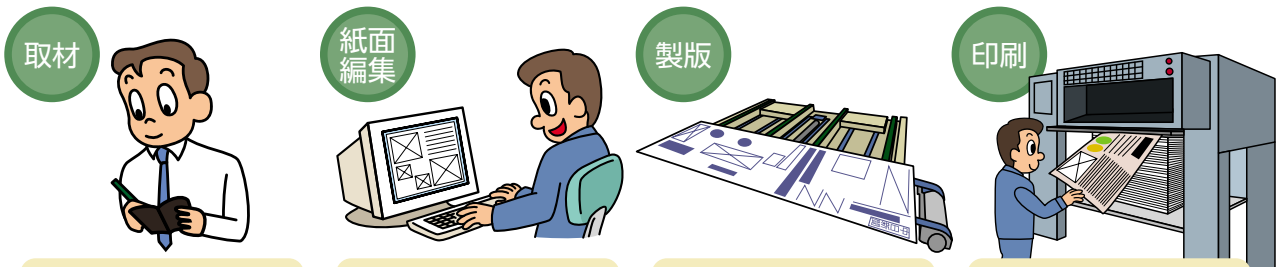
大事件はチーム取材

取材したら、原稿を仕上げます。小さな事件事故なら 10 分もあれば OK。大きな事件になると記者１人でなくチーム取材するケースもあります。その場合は情報を突き合わせ、代表者が原稿にしたり合作にしたりします。

原稿はパソコンで打ち、仕上げます。出来上がると、社内情報通信網（LAN）や携帯電話で本社サーバーに送り込みます。写真もデジタルカメラで撮りパソコン経由で本社へ。

本社ではデスクという“最初の読者”が目を通

新聞ができるまで



記者が、現場に駆けつけて関係者の話を聞き、写真を撮ります。取材したことを基に記事をまとめ本社に送ります。

記事を読んでニュースの価値判断をして、記事に見出しを付け、写真やグラフを使ってレイアウト、紙面を仕上げます。

新聞の形に組み上がったデータを印刷工程に送り、輪転機にかける「刷版」というアルミ板を作ります。

刷版を高速輪転機に取り付けて印刷します。刷り上がった新聞は、新聞販売店へ発送し、各家庭に配ります。

します。文章の善しあし、表記の間違い、取材不足の指摘などし、OK なら整理部へパソコンで送信します。

まず記事の価値判断

たくさんの取材部門からデスクを通じて、レイアウト担当の整理記者のところへ大量の原稿が流れ込んできます。ここからはレイアウトと見出しを担当する整理部の仕事です。どれをトップ記事にするかを判断し、見出しはどうする、1 ページに何本の記事を組むか――が整理記者の仕事です。

1 面を例にとります。1 面というと、朝刊なら前日、日本で、世界で起きた一番大きなニュースを収容する面です。生のニュースなら 3 ～ 5 本が入ります。この中でも 1 番のニュースは、題字のとなりにトップニュースとして大きく扱われます。記事を大きく扱うために、見出しを何本も取ります。このニュースの最大ポイントを表す見出しを主見出しといいます。地紋を付けた、通称「トッパン」見出しからゴシック体、明朝体などさまざまなフォント（字体）を大小の大きさを交えて、記事の肝を訴えます。

見出しは文字数を 8 字から 10 字で表すのが最適とされます。それ以上だと、すぐに理解しにくいのです。焦点もぼけます。主見出しで表現できない場合は次の見出しである「脇見だし」を添えます。

見出しとレイアウト

整理記者は原稿を読みながら見出しを考えます。締め切り間際に飛び込んできた原稿でも、斜め読みして的確な見出しを付けます。いわば見出しのプロ集団。

もう 1 つの仕事はレイアウト。原稿の行数を計算し、収まるスペースを確保。さらに、見出しの大きさや写真のサイズで微調整します。それでも、オーバーフローすることもあります。そのときは原稿の最後を切り落とします。新聞原稿は途中で切り落とされてもニュースのエキスが伝わるように作ってありますので心配いりません。これらの作業は「編集組版」というシステムの端末機器を操作して作り上げます。

1 ページ分を直接刷版に

印刷

組み上がると 1 ページ分が印刷工場へ電子情報として送られます。それを元に刷版という印刷原版が作られ輪転機にセットされます。

朝刊の場合、32 ページの時が多いのですが、全ページがセットされると印刷開始。1 時間に 15 万部（ページ数やカラーの枚数により変動します）が次々に印刷されます。

中日新聞は中部 7 県で 270 万部余りを毎日発行しています。印刷能力が毎時 15 万部といえども時間がかかりすぎます。対応するためには輪転機を増やすこと。名古屋の本社のほか名古屋市内の辻町、金城工場と豊田、岐阜、東濃、そして浜松の 7 工場で印刷しています。同じ朝刊でも輸送時間の関係で早い時間に印刷する版（早版）、次の版（中版）、遅い版（遅版）と時間帯をかえています。

宅配制度ぐんと充実

販売

印刷された新聞はコンベヤーに乗って動き、販売店別に部数計算されて梱包します。すべてコンピューター制御されています。梱包した新聞はトラックに積み込まれ、各方面に向かいます。遠い所ほど早く出発するのは当然で、トラックが何十台も走っていきます。販売店に着くと、待ちかまえていた店の人がチラシを挟み、配達員が原則朝の 5 時までに読者宅へ配るのです。

日本の日刊紙の特徴は宅配制度の充実です。最近ではコンビニや駅の売店売りも増えてきましたが、朝、自宅のポストへ行くだけで新聞が手に届く宅配はなおも主流です。

学校・学級新聞コンクール

小中学校での新聞づくりが盛んになっています。学校から保護者への「お知らせ」を新聞形式にした「学校学級通信」、子どもたちの勉強成果を新聞形式で発表する「自分（マイ）新聞」のほか生徒会新聞や保健委員会だよりなど、多彩な形式の新聞があります。形態もパソコンで作るものから手書きのユニークなものまで多種多様。

パソコン作製が主流

先生が作る通信

一枚の紙に連絡事項を書いただけの「便り」じゃ味気ない。そこで、楽しく呼んでもらうために新聞形式にしている先生は多く、パソコン作製が主流です。

記事は学校であった行事の報告や、子どもたちの学校生活の様子、さらにはお知らせ事項も加えます。写真も入れて、見出しを付ければ保護者に読んでもらえます。通信の場合、定期的に発行しているケースが多く、連載企画を織り込む事もできます。

本格的な新聞形式に

子どもが作る新聞

生徒会新聞は全校規模の本格的な新聞でページ数も多いのが特徴。印刷会社で印刷してもらいます。学級新聞は手書きだったり、パソコン仕様だったりとさまざま。単独で作る場合とグループで作る場合があります。小学生では手書きで絵入りが主流のようですね。中学になるとパソコンのケースが増えますが、手書きもまだまだ。定期刊行はむしろ少なく、単発で「新聞づくり」に挑戦した結果のようです。

中学、高校でみられるのは委員会単位で発行する新聞。福井県では高校の保健委員会で定期刊行しているのが目立ちます。

中日新聞では、これら学校で作る「新聞」を対象に、毎年コンクールを開いています。先生が作る部門と児童生徒が作る部門の２種類で募集し、優秀作品を表彰します。2009 年（21 年）度は 53 点が集まり、児童、生徒の部の小、中学校に最優秀賞１点ずつ、先生の部は優秀賞３点を入賞として表彰しました。募集要項は、年度によっては多少の変更があるかも知れませんのでご注意を。

学校学級新聞コンクール募集要項

児童生徒の部と先生の部の２部門

該当する年度の４月から発行された新聞、通信が対象で、手書き、パソコン作製とも可。壁新聞は除く。

応募は、発行した新聞全号をとじ、表には「○○の部」と朱書きし、学校名、学年・学級、学校の〒住所、電話番号、担当責任者（指導の先生）を記入、活動状況（100 ～ 200 字程度）を添えてください

送り先は、〒 460-8511（住所不要）中日新聞 NIE 事務局学校学級新聞コンクール係へ

締め切りは例年、1 月 10 日ごろ。（その年によって変わりますので注意を）

審査の上、児童生徒の部は最優秀賞、優秀賞、入選を選ぶほか、佳作、学校賞も決めます。先生の部は、最優秀賞、優秀賞、入選、佳作を選びます。年度末の２月中旬に中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井で発表し、２月下旬に名古屋市内で開く表彰式に最優秀賞と優秀賞の児童生徒と学校賞の児童生徒、先生、最優秀賞の先生を招きます。

作品製作の指導のために、NIE 事務局から専門の講師を派遣することもしています。無料。

先生のための研修会「パソコン教室」

毎年6月に開いている「先生のための新聞活用研修会」は、これからNIEをやってみようという、若い先生方を対象に開いています。

NIE実践の先輩教師であったり、カリキュラム本の編集に携わった先生であったりと、講座のメニューは毎年変わりますが、最近の2年間はパソコンで作る学校学級通信の指導が続いています。

新聞作りの手法学ぶ

学校の先生方は、「新聞」という便利な手段で子どもたちや保護者に学校の事や先生の考えを伝えたいと思って、学校学級通信づくりに挑みますが、いざとなると、なかなか大変。読みやすいパソコン仕上げにしたくても、PCをこなしきれない。そんなSOSを受けて、パソコン教室を開きました。

パソコンで通信を作るソフトはいろいろあります。標準装備のワードのほか市販のソフトがあります。教室ではワードと市販のソフトで挑戦しました。

参加者は毎回40人前後。午前中は全員を対象に取材の仕方やレイアウトの仕方を座学で行います。午後からは、これまでワードと市販のソフトに分かれ、パソコンを前に実践練習をしています。講師はワードに手慣れた中学校の先生と、ソフトを開発した専門家。いつも使っていても知らなかった便利な方法や、裏技を学びます。

講座終了後のアンケートでは、提出者34人中、「役だった」と回答したのは▽取材方法31人▽見出し33人▽実習28人――でした。

ドラゴン号の派遣

中日新聞社には、新聞製作・広報車「ドラゴン号」があります。29人乗りマイクロバスを改造して、取材機器、印刷機器、発電機などを搭載。5人乗りで、いわば動く取材基地兼印刷工場です。

新潟県中越地震をきっかけに05年(平成17年)に導入しました。災害現場に乗り入れて、ミニニュースを発行、通信が途絶した地域で情報提供に貢献します。大きな事件現場や選挙の号外発行にも活躍しています。学校などからの出動要請は、新聞学習に関わる場合を原則としています。

多様な活用法を期待

装備は▽カラープリンター3台▽高速モノクロプリンター1台▽20時間発電ができる自家発電機1台▽パソコン2台▽デジタルカメラ2台。A3片面印刷で、1時間にカラーなら3600枚、モノクロは7800枚できます。

これまでに災害出動はなく、主にイベント時の現地印刷のために活用されています。年間出動回数は約50回。そのうち3分の1はNIEがらみの出動です。

愛知教育大学連携新聞講座

大学生も新聞理解を

「中日新聞・愛知教育大学連携新聞講座」は、大学が2005年度から立ち上げた「地域の教育力を生かす市民参画講座」の1つとして開講しました。教職に就いて、新聞を教材に児童・生徒たちに教える場合、教える側が新聞を理解していなければ指導できません。教育大学生の多くが新聞を読まないだけでなく、10年12月調査では「新聞はいらない」とまで答える現状にあることを踏まえ、学生たちに「新聞」を理解してもらいたいという考えから継続しています。新聞社が講師を派遣し、大学側が施設を提供するという覚書を取り交わして実施しています。

現職の記者を講師に

スタート当時から、教育大学には新聞を学ぶ講座がなく、大学からは新聞社の現職の記者、カメラマンや経験者が講師として登場する特色ある講座として注目されています。とりわけ、学習指導要領の改定に伴い、11年4月から小学校の教科書を皮切りに、中学校、高校と毎年順次、すべての教科書が新しくなります。

小学校の新しい教科書では、国語、社会などを中心に、新聞を教材とした授業や、新聞作り、新聞などメディアの学習が取り上げられています。ですから、将来先生になる学生にとっては、新聞の実際を知ることも必要になって来ています。

連携講座は、新聞を読み解き、考える力を育成することの必要性を学生に理解してほしいという願いから「新聞を学び、新聞で考えるー新聞を活用した授業力の育成」をテーマに設定しました。年間を通じて▽総合演習講座▽6年一貫コース新聞学習夏期集中講座▽教職大学院新聞学習夏期集中講座―の3つを開講しています。特徴は、1人の講師が全てのコマを受け持つのではなく、毎回講師が変わる点にあります。最近ではこのほかに、教員免許更新講習も受け持っています。

教師を招いて講座も

連携3講座の内容は、大ざっぱにいって①新聞を知るという概論②記事を書く、レイアウトするといった新聞製作③教育現場での新聞活用体験―が中心です。各講座とも15コマくらいで授業を構成し、内容ごとに分けて講師を派遣しています。

例えば総合演習講座は、前期に実施する土屋武志社会科教育担当教授と、後期に行う富山祥瑞美術教育担当教授の講義です。最近の授業の内容は編集局が担当する「新聞を学ぶ」と、NIE事務局が担当する「新聞を作る」のほかに、教育現場の先生が指導する「新聞を活用した授業実践」の3分野で構成しています。

書き方から見出しも

もう少し詳しく10年度の講座で説明しますと、編集局は「新聞の果たす役割」というテーマで、新聞の概論を講義しました。NIE事務局は、新聞記事の書き方や見出しの付け方、レイアウトの仕方など新聞作りの実務を指導しています。学校で実際に児童・生徒に授業をしている先生は、新聞活用の実践授業や学校新聞作りの授業などを紹介して、学生に分かりやすく説明しています。

学生がミニ新聞作り

後期に開講した富山教授の美術系授業では、初めて宿題を毎回出し「新聞を読み解き、記事の影響や自分の意見を書く」実習にも取り組みました。学生が提出したそのリポートは、中日新聞NIEコーディネーターが全部読んでコメントを書き、返しています。学生が新聞を読む機会を増やし、新聞に興味を持ち、新聞のことを理解してもらう試みです。最終段階のまとめとして、学生にA3

判のミニ新聞を作る実習を課しています。

前期に行う土屋教授の社会科系授業は、学生が実際に小中学校でNIEの研究授業をし、そのために必要な基礎知識を身につけさせています。

6年一貫コース新聞講座は、学部と大学院を連結した6年修了制度で学ぶ学生たちの授業です。5日間の夏期集中講座で、学生たちは中日新聞社を主会場に講義を受けます。近年はやりの「インターン制度」に似た実習方法です。編集現場を特別に見学して紙面の割り付けの様子を見聞するほか、新聞記事の特徴、報道写真の撮り方、新聞の果たす役割などの基礎的な講義を受けます。その上で「新聞記者になろう」という小学校の単元を想定して、NIEを実践している小中学校の教師や編集局の管理職にインタビュー、記事にまとめる実習も取り入れています。

編集局の中枢で整理記者から紙面づくりについて説明を聞く愛知教育大学6年一貫コースの学生

「社会性」を育てたい

なぜ大学生に「新聞に学ぶ」などといったNIEの講義をするのか、と考える先生も多いことでしょう。いまでは教育大に限らず大学生の情報を得る主体は、インターネットです。キーをたたいて自分に必要な情報だけを得れば十分と考えています。この傾向は、今後ますます強くなるでしょう。

その結果なのか、小・中・高の学校教育に問題があるのか原因が明確ではありませんが、基礎的な読解力や文章力が低下しているだけでなく、「社会性」に乏しい学生が多いと、大学の教授はいいます。先生になる前に、社会人として迷わない、困らない素養を身につけないといけないのではないかと話しています。そのための教材として「新聞」は良い学習材ではないか、と考えて「NIE講座」を取り入れていただいていると思っています。

教師に「新聞の実際」

09年からは、教職大学院でも5日間の新聞学習夏期集中講座を開講しています。内容は6年一貫コースとほぼ同じですが、院生は小中学校の現職教員なので、保護者への学級通信や、学級新聞、個人新聞作りに役立つよう、実際の紙面作りの体験をしています。新聞活用、新聞学習は、少しずつ対象が広がりつつあります。

教員免許更新講習「NIE講座」

新聞を授業に生かして

中日新聞社は09年から愛知教育大学で、日本NIE学会理事で社会科教育担当の土屋武志教授と協力し、教員免許更新講習の一環として「NIE講座」を開講しました。好評で毎回、定員50人をオーバーしています。1日360分の講座を3日間持っていますが、締め切り前に埋まっているのが現状です。10年度は、免許更新講習を見直す文科省の動きもあって、受講対象なのに見合わせていた先生が少なくはありませんでした。そのためか、12月末の講座では、中部3県内の先生だけでなく、遠くは茨城、山梨県など遠方から駆け込み参加した受講者もいました。

内容は、生の情報が詰まった「新聞の教材化」を考えてもらう授業です。講座には、NIEの教育的意義、新聞を教材にした授業の実践、新聞を使った自分新聞作りなどを取り入れ、教育現場の先生に新聞を授業に生かす方法を学んでいただいています。

小学校（高学年）総合的な学習

「情報発信に効果的なメディア」を考えよう

愛知県豊橋市立飯村小学校　小野　浩史

1　学習のねらい

他のメディアと比較することで、新聞というメディアの特徴について考える。

2　学習計画（3時間）

情報発信に効果的なメディアについて考えよう（2時間）

・自分が一番有効であると考えるメディアのよさについて調べる。
・一番有効なメディアについて話し合う。

「テレビ」と「新聞」の情報発信の有効性について考えよう（1時間）

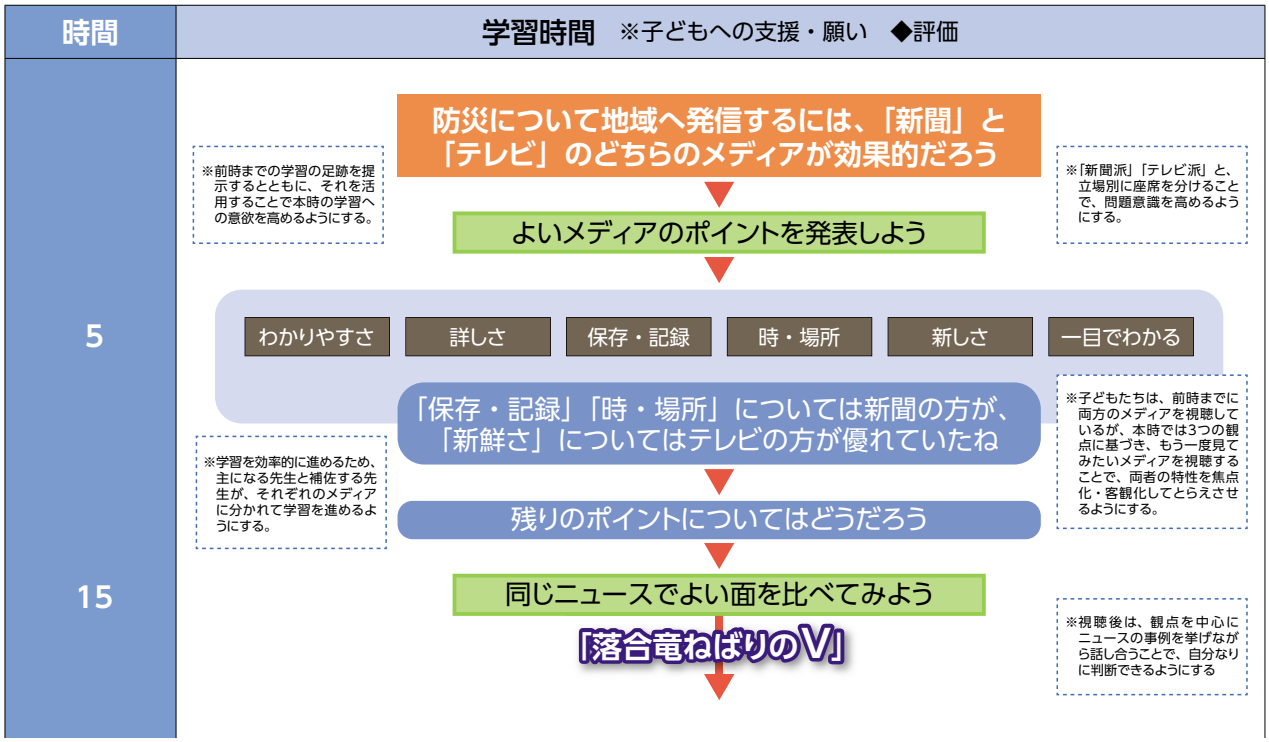
・「テレビ」と「新聞」のメディアとしての特徴をとらえる。

3　新聞学習「『情報発信に効果的なメディア』について考えよう」

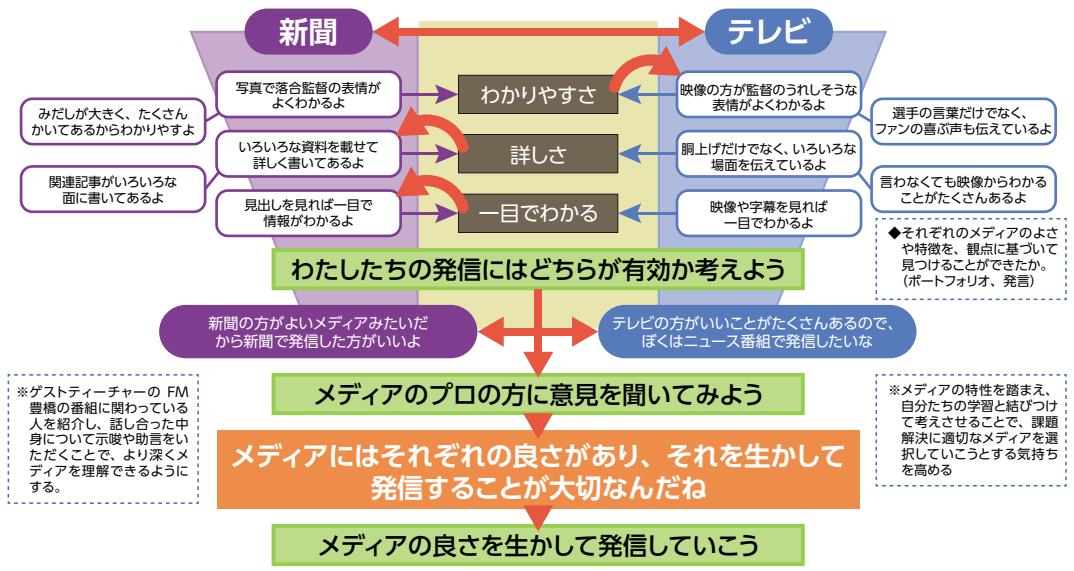
(1)　ねらい

・「新聞」と「テレビ」の特徴を比較し、メディアとしての有効性を話し合う活動を通して、それぞれのメディアの特性を理解するとともに、目的や受信者によって 適切なメディアを選択して発信していこうという気持ちを高めることができる。

(2)　学習活動



35



（3） 子どもの反応

D 児：ぼくは、はじめテレビの方がよいメディアだと思ったけれど、何度も読むことができたり、どこにでも持っていくことができたりする新聞もよいメディアだと思いました。だれに伝えるかによってもよさがちがってくると思いました。

H 児：わたしは、配っておけばいつでも読んでもらえる新聞の方がよいメディアだと思っていました。でも、速報が流せたり、映像を使って伝えることができるテレビもすごいと思いました。今日は話し合わなかったインターネットやパンフレットなどもよいところがあったので、よさを生かしていけるといいと思います。

4　資料　ワークシート

子どもが考えた「テレビ」と「新聞」のメリットデメリット

	メリット	デメリット
テレビ	・情報が新鮮で、速報ニュースもある ・映像で場面や表情がよくわかる ・説明がわかりやすい ・一度に多くの人に伝えられる ・音声や BGM で迫力がある	・ニュースの時間しか見ることができない ・繰り返しみるためには録画しなければならない ・持ち運べない ・解説やコメントに流されやすい ・知りたくない情報も見てしまう
新聞	・持ち運べる ・繰り返し読める ・知りたい情報を選択できる ・読みたいときに読める ・たくさんの情報が載っている ・何が起きたのか一目でわかる	・言葉が難しい ・読むのに時間がかかる ・次の日にならないと知ることができない ・文字が小さくて読みにくい ・購読料がかかる

5　関連教科・領域等

「伝え方を工夫して発信しよう」
（国語：６年生・光村図書）
「自分の考えを発信しよう」
（国語：６年生・光村図書）
「メディアとわたしたちのかかわりについて考えよう」
（国語：５年生・東京書籍）

※そのほか、総合的な学習、社会科など調べたことをまとめ、発信する際に実践すると効果的です。

情報を読み解く力を身に付けよう
―情報リテラシーを学ぶ―

浜松市立船越小学校　山﨑　章成

1，情報リテラシーを学ぶのは

情報過多の社会を生きる子どもたちは、満ちあふれる情報の中から、自分にとって必要な情報を集め、読み解き、使いこなす能力を養うことが大切です。情報を受信する立場としても、発信する立場としても、力を付けていくようにしたい。

【学習展開例】

1. ２つの新聞社の記事を読み比べてみよう。
2. 同じことの記事でも書きぶりが違うことに気づく。
3. 正しい情報を得るために気を付けたいことを話し合う。
4. 情報を得る時、気を付けたいことをまとめる。

2，情報を受信する立場として

同じ出来事で書きぶりの違う記事を子どもたちに提示します。２つの記事を読んで気づいたことを発表させると、子どもたちは同じ出来事を扱った記事でも書きぶりが随分違う場合があることを知ります。

これは、１つの記事を読んでいては気づかないことだが、どんなことでも全てを把握することは不可能です。そこで、情報を受けた場合、「批判的に読み解く」必要性を学ばせたい。「批判的に」とは否定することではなく、情報を鵜呑（うの）みにしないで真偽を確かめることを指します。

この学習は、新聞に限らず、インターネットやテレビ、ラジオ、雑誌など、さまざまな情報を得る時、気を付けたいことで、情報も対象にしています。複数の新聞社の記事を使わなくても、複数の地域版を入手できれば、高校野球の同一試合の結果でも、ある地域では「○○高校　完勝」と書かれているものが、別の地域では「○○高校惜敗」と書かれている場合があります。こうした記事を入手できれば、新聞の地域性を学ぶ機会とすることもできます。

【情報を得る時、気を付けたいこと】

1，情報を鵜呑（うの）みにしないで、真偽を確かめる。
2，できるだけ複数の情報を得て、判断するように努める。
3，事実と意見，感想などを区別し、混同しない。
4，情報の出典を明示し、著作権に配慮する。

3，情報を発信する立場として

子どもたちは写真を撮るのが大好きで、調べ学習にデジタルカメラを使用することも多い。実際に子どもたちが撮った写真を見ると、取材対象よりも子どもたちが目立つポートレートのようなものになってしまうことが多い。

【学習展開例】

1. デジタルカメラ「頑張っている友達」を撮ろう。
2. 自分なりに工夫して友達と写真を撮り合う。
3. 思いが伝わる写真を撮るためにどうすればいいか話し合う。
4. 写真の撮り方の工夫をまとめ、今後の学習に生かす。

そんな子どもたちに「頑張っている友達」の写真を撮ろうと投げかけて写真を撮らせると、カメラと正対した写真だけでなく、何かをしている最中の写真を撮ったり、子どもだけでなく背景も取り込んだ写真を撮ったりする工夫が見られます。

同じ人の顔を撮る場合でも、正対するだけでなく、下から見上げて撮ったり、上から見下ろして撮ったりさせると、表情が全く違う写真になることが分かる。その後で「○○を頑張っている友達」とテーマを設定して取り組ませると、ポートレートのような写真を撮るのではなく、対象物に向かって生き生きと活動している姿を撮ることのおもしろさを実感として学ばせることができます。

情報の発信者としてのあり方は、5年社会科や「総合的な学習の時間」などで学習することが多い。

社会科の教科書では、テレビのニュースや新聞記事で間違った情報を流してしまったために起きた問題を例に、正しい情報を分かりやすく発信する大切さと、間違えてしまった場合は速やかに訂正する必要性を学びます。

子どもたちは、低学年の段階からさまざまな形で情報を発信します。そこで、それぞれの段階で「情報を発信する時、気を付けたいこと」に掲げたような内容を繰り返し教え、どの子にも情報の発信のあり方を身に付けることができるようにしたい。

新聞は、日々の社会で起きている価値ある情報を得るための貴重な媒体ですが、より的確に情報を発信する方法を学ぶこともできます。こうした点を意識して、意図的、計画的に活用していきたい。

【情報を発信する時、気を付けたいこと】

1，発信する情報に責任をもつ。
2，情報の受け手のことを考え、分かりやすく発信する。
3，情報を発信することによって、人を傷つけないように配慮する。
4，個人情報の流失に注意する。

情報の宝庫「新聞」

三重県桑名市立深谷小学校　尾関　一夫

情報化時代に生きる

私たちの身の回りには、数え切れない情報が飛び交っています。情報の入手手段も、新聞以外にテレビ、インターネット、携帯電話、本、雑誌、ラジオなど多岐にわたります。活字離れで新聞を読まない人が増えてきたとも言われていますが、多くの家庭で新聞の定期購読をしています。

なぜ新聞なのか

小中学生のなかで毎日、新聞を手にとって読んでいるという子どもは少ないと思います。ましてや、新聞についての学習をしていない子どもたちにとっては、いつも家にはあるけれど、自分の生活からは遠い存在だと思います。しかし、両親など新聞を読んでいる人にとっては、何か良さを感じて購読しているのだと思います。そこで、なぜ購読しているのかについて家族に聞き取りをしてみると、その良さや面白さに気づき、自ら新聞を手にとって読むきっかけになるのではないでしょうか。

新聞の良さ

新聞について調べ活動をする。

調べること
①家族の誰が、いつ、どこで新聞を読んでいるか。
②どんな記事を読んでいるか。
③なぜ新聞を読んでいるのか。定期購読しているのか。

①について

・親や祖父母が、朝、食卓で朝食をとりながらという回答が多い。
・「お父さんが、トイレや通勤電車の中で読んでいる。」とか、「仕事から帰ってきたお父さんが記事を切り抜いている」などというものもある。

これらの調べから、新聞は、好きな場所で好きな時間に読めるということに気づかせることができます。また、切り抜きスクラップをして、記録したり保存したりできることにも触れられます。

②について

・政治の動き　・選挙結果
・スポーツの結果　・テレビ欄
・三面記事　・地域の情報
・広告　・社説
・コラム　・投書欄

子どもたちにとっては、こんなに情報が詰まっているのかと驚きがあります。そこで、学級で1日分の一般紙の朝刊を用意して、実際にどんな情報がどれぐらい載っているのかを数字で確かめてみる活動につなげることができます。記事の種類や写真の枚数、広告の数、ページ数やおおよその文字数などを調べるとさらなる驚きが生まれます。全ページを横につなげてみると教室の幅よりも長くなり、情報の多さがひと目でわかります。

③について

・知りたい情報が載っているから。
・身近なニュースが載っているから。
・連載小説が楽しみだから。
・安いから。
・記事が詳しく書いてあるから。
・買い物やイベントの情報がわかるから。
・手軽に読みたいときに読めるから。

ここでは、新聞の良さに迫る内容がたくさん出てきます。新聞の情報に見られる「地域性」「正確性」「一覧性」「コンパクト性」、出来事の「重要性」などがわかります。

信頼できる新聞の情報

新聞記者は、現場へ行って取材活動を行い、正確かつ迅速に記事を書き、写真を添えるなどして記事のわかりやすさも追求しています。テレビの情報番組でも最近は、新聞記事をもとに情報を伝えます。インターネットで検索したサイトのニュース情報も、情報源は新聞から取っていることが多いことを考えると、新聞がいかに人々から信頼され、確かな情報としてとらえられているかが分かります。

調べ活動をする際には、新聞を定期購読していない家庭もあることから、そういった家庭の子どもたちへの配慮が必要です。

新聞とテレビ

最近は、新聞にもカラー写真が多く載せられるようになりました。情報を得るには新聞かテレビかと問うと、子どもたちにとっては、写真のある新聞よりも動画と音声のあるテレビの方を選択する傾向にあります。そこで、新聞とテレビの情報を比較する活動をします。子どもたちにもわかりやすい出来事を報道したテレビのニュースと新聞の記事を用意します。伝えている情報の中身がほぼ同じものを選んでおくところがポイントです。そして、子どもたちを「テレビ派」と「新聞派」に分け、教室も別にします。

新聞の良さに気づかせ

テレビは、１回のみの視聴とし、時間内にどれだけの情報を得られたかを競います。すると、「テレビ派」側は、映像に見入ってしまい、多くの情報を書き留めることができません。しかし、「新聞派」側は、自分たちのペースで多くの情報を書き留めることができます。最後に情報量を交流して、新聞の良さに気づかせていきます。

これまでに選んだ比較する情報
- **作業中にクレーン車が横倒しになった事故。**
- **郵便局に強盗が入ったという事件。**
- **宇宙ステーションで日本人がロボットアームを操作してミッションを成功させた。**
- **水族館にシャチが運び込まれた。　など**

新聞の読み方

メディアリテラシーの観点から、新聞を賢く読む資質を培う授業もこれからはさらに重要度を増すことでしょう。同じ記事内容を伝えるものでも、新聞社によって見出しや写真に違いがあったり、注目している視点や読者の興味を意識した書き方に違いがあったりします。

こうしたことに意識した活動を授業の中に取り入れていくと、作り手の意図について考えることができ、質の高い情報とは何かについて気づいていくきっかけになっていくと思います。ある一部の情報だけで判断してしまうのではなく、さまざまな情報からその真価を判断して、情報を取捨選択できる力を付けていきたいものです。

記事を比較するときは
- **同じ日に発行された数社の日刊紙を手に入れる。特に、大きな出来事が報道されている日に数社集めておくと良い。**
  （NIE 実践指定校に応募し指定されると、三重県の場合は７社の日刊紙が毎日、数カ月無償で届けられる。）
- **出張や旅行に行った際には、地元の日刊紙を手に入れてくる。すると、地域性から記事を比較することができる。**

これらの活動が、単発に終わることなく、継続した新聞学習ができるように、時間設定や場の確保をしたいものです。「身近なニュース」や「お気に入りの記事を発表」「印象に残るこの１枚」など、テーマを決めてクラスで発表したり、交流したりできるような活動ができると、自然に新聞に親しむ子が育っていくと思います。

NIE週間行事「ファミリー新聞講座」

中日新聞社は、11月の初旬に設定されている「NIE週間」の行事として、毎年、小学生と保護者を対象にした「ファミリー新聞講座」を開催しています。

これまでの主な内容は、その年の話題にのぼるニュースの取材をした記者の苦労話やエピソードを交えた講話と、社内見学（輪転機など印刷現場の見学）を組み合わせ、クイズを取り入れて楽しみながら新聞に親しんでもらう志向でした。

最近の記者の講話内容

・ドラ番記者による「中日ドラゴンズの取材余話」
・北京派遣のスポーツ担当記者による「北京五輪取材の裏話」
・教育報道部のこどもタイムズ担当記者による「こども記者になるには」

講話の後、質問タイムがあり、記者の仕事に関する突っ込んだ質疑応答がありました。

2010年度ファミリー新聞講座概要

2009年までの講座内容とは、少し趣向を変え、児童の作品（記事か写真）を素材に「新聞作り」に挑戦してもらい、少しでも新聞に関心を持ってもらえるようにと願う内容にしました。

1　募集した記事と写真の優秀作品を各6点選び、表彰式（親子を招待）
2　表彰式後、新聞製作用パソコンで、自分の記事や写真に見出しや名前を入力し、新聞作りに挑戦
3　新聞製作車・広報車「ドラゴン号」で新聞を印刷するまでの作業を見学
4　刷り上がった新聞を親子で閲読

表彰式

●入賞者全員に表彰状と賞品が渡され、記念写真を撮りました。

あいさつ（中日新聞NIE事務局長）

●作品の審査講評で、応募作品全体のことと入賞作品の優れた点の話がありました。
●NIE週間にちなんだ話として、新聞の役割や新聞の読み方などの解説があり、生活に役立つ新聞の話がありました。

※2012年からは11月が「NIE月間」になります。

新聞作り

①モバイル端末（新聞編集機能搭載のパソコン）に記事・写真の入力

参加児童全員が自分の記事や写真に、見出しや名前を入力し、新聞作りに挑戦しました。

②ドラゴン号で新聞印刷

モバイル端末で入力したデータを、ドラゴン号の紙面編集用パソコンに取り込み、印刷機から「中日子供新聞」が刷り上がってくる作業過程を見学しました。

新聞の鑑賞

●出来上がった新聞を読み、自分が書いた記事・撮った写真のレイアウトや出来栄えを、親子で確認しました。

今後のファミリー新聞講座

NIE は、学校教育だけでなく、生涯教育の視点に立ち、あらゆる教育機会に新聞が活用されることを視野に入れています。

本社が主催する「ファミリー新聞講座」が参加家族のファミリーフォーカスの出発点となり、新聞をよりよく生きる力の源として、一家そろってご愛読いただけるようになれば幸いです。

今後も、よりよい社会づくりに貢献できる人の育成に寄与できるような内容を工夫し、NIE 週間にふさわしい行事にしていきたいと考えています。

ファミリー新聞講座応募要項

2010 年 10 月 6 日付の朝刊社告より

「NIE 週間に新聞作り」 小学生の記事と写真募る	
本社は、NIE（教育に新聞を）週間（11 月 1 ～ 7 日）「ファミリー新聞講座」事業で、小学生の記事と写真をそれぞれ募ります。	
内容	「新聞は友だち」をテーマに、新聞を読んだ体験談、意見、感想を 250 ～ 300 字の範囲内で書いて郵送かメールで応募してください。写真のテーマは自由で 1 人 1 点、メールに添付。優秀作（記事、写真とも各 6 点）は、表彰式に新聞製作・広報車「ドラゴン号」で作る「中日子供新聞」に掲載します。
対象	愛知、岐阜、三重県内の小学生
作品の送り先	作品に氏名、〒住所、電話、ファックス番号、学校名、学年を書き、〒 460-8511（住所不要）中日新聞社 NIE 事務局：メール niejim@chunichi.co.jp へ
締め切り	10 月 25 日
表彰式	11 月 6 日、中日新聞社・北館 4 階ホール（名古屋・三の丸）

中日新聞見学 こんな風に
―最新の新聞製作を体感―

新聞のことを知りたいと思ったら、まず新聞社に足を運んでみましょう。小学生時代に一度は新聞社を見学したことがあるよ、という思い出をお持ちの方もあるかと思いますが、飛躍的な製作技術の進歩で、大変革しています。

中日新聞社では、現在の社屋（名古屋市中区三の丸）に引っ越した昭和 46 年以前から、旧社屋（中区丸の内＝現在は中日病院）でも見学者を受け入れてきました。ここ数年は年間 13,000 人ほどの見学申し込みがあります。

様変わりの新聞作り

あなたも最新の新聞製作工程を見学してみませんか。鉛活字で 1 ページを組み上げ、紙型から鉛版を製作したかつての時代（HOT 時代）から、いまでは技術革新が進み、整理記者がパソコンで紙面を組み上げる時代へと様変わりしました。こうした変遷の様子は、見学展示室でじっくり見ることができます。対象は、小中学生から、一般の人まで。

社内見学の内容は、新聞の製作過程を紹介する映画、印刷･発送職場の工場見学が 1 時間コース。またパソコンを使った新聞作り体験はおよそ 2 時間コースになります。

「新聞の誕生」映画で

映画は「この町で生まれ　この地球で育つ」というタイトルの映像で約 20 分上映。新聞社全体の仕事、取材記者の活躍から整理記者の紙面編集の様子、印刷、発送、販売店から読者へと新聞作りの流れを紹介します。

工場見学は、最新の超高速輪転機の並ぶ輪転場。夕刊の印刷風景が間近に見学できます。新聞社の“象徴”でもある輪転機がごう音をあげて夕刊を印刷する様子は、思わず足を止めて見入ってしまう迫力があります。印刷されたばかりの新聞は、特殊なキャリアーで発送場へ送られ、販売店別にカウンタースタッカーが部数を正確にカウントし梱包（こんぽう）してトラックヤードへと運ばれます。輪転機の稼働は、時間帯がおおかた午後になりますが、稼働していない時間帯もありますから、事前に確認が必要です。

PCで新聞作り体験

新聞作り体験コースは、パソコンを使って見出し付けや、写真の取り込みを体験できます。製作した紙面は、カラー印刷をして記念に持ち帰れます。紙面作りのソフトは市販のものを搭載したパソコンで、6 台設置してあります。6 人以上の体験希望がある場合は、順番待ちの時間が必要になりますので見学係と詰めてください。

社内見学は、まず中日新聞ホームページ

http://www.chunichi.co.jp/ にアクセスしてください。最下段の会社案内をクリックすると「中日新聞社から」のページになり、その中の「名古屋本社見学のご案内」をもう一度クリックしますと、詳しい案内や申し込み方法が記してあるページが開きます。申し込みの受け付けは、電話：052-221-0578（直通）で、平日 10：00 ～ 17：00 まで。見学月の 3 カ月前から受け付け、見学可能日は土･日・祝・年末年始を除く平日の 10 時、13 時、14 時 30 分からです。

新聞教育の指導

先生のための教育セミナーを開催

新聞学習をどう進めたらいいか―。教育現場の先生たちに新聞活用の実践方法や意義などを学んでもらう「先生のための教育セミナー」は、NIE事務局の中心事業の1つです。新聞を授業で活用してみようと考えている先生や教育学部系の大学生、教育関係者は、ぜひ一度参加してください。

NIEシンポが原点

セミナーの原点は、1995年の「NIEシンポジウム」が始まりです。これを2年続け「中日いきいき学習シンポジウム」に名称を変更、さらに「総合学習と新聞活用座談会」と改称しました。いずれも11月中旬から12月初めに開催していましたが、99年から現在の「先生のための教育セミナー」がスタートしました。

日程は、毎年夏休み中の8月10日前後で、NIEの研究をしている大学教授らを講師に招いて、本社で開催しています。22年度で13回目になります。

当初は、特色あるが学校作りや、生きる力を育むために教科横断的な授業をする「総合的な学習」が始まったばかりで、新聞活用に関心が高まり、200人から250人近い先生らが受講していました。

セミナーの意義不変

最近は、先生の雑用が増えて忙し過ぎるのか、関心が薄れてきたのか、両方なのか定かではありませんが、100人から150人くらいの受講になっています。

参加者が減っているとはいえ、新聞活用の方法を学ぶ教育セミナーの意義は変わっていないと考えます。というのは、11年4月からは新学習指導要領に基づき、小学校の教科書が一斉に新しくなりました。とりわけ国語や社会科では、新聞を活用する授業内容が今までにくしっかりと取り入れられていますので、先生もNIEに関心を持たざるを得なくなりました。来年、再来年は中学、高校でも順次、教科書が一新され、新聞活用授業の必要性が高まるでしょう。

教育セミナーの講演内容はこれまで、詳報を40～45ページくらいの冊子にまとめて中部9県の小、中、高校へ寄贈してきました。

教科書に沿うガイド

10年は、小学校の教科書が刷新されるのに絡めて、講演の内容を「新学習指導要領とNIE」としました。教科書に合わせたガイドブックを作製することにしてセミナーの詳報を大幅に圧縮。先生が利用できる中日新聞社のNIEの取り組みも紹介することになりました。8月10日に中日新聞本社で開催。講師は、日本NIE学会理事で愛知教育大学教授の土屋武志氏と、浜松市船越小学校教諭の山﨑章成氏でした。以下、講演内容の概略を再録しました。

11年夏の教育セミナーも、中学校の教科書が一新されるのに関連して内容やテーマを決め、8月10日前後に開催する予定です。

教育セミナー 基調講演

なぜ学校で新聞を活用するか？

愛知教育大学教授　土屋　武志

1. 生徒にとって学校は社会

人が普段、出せない力を発揮する時、その力のことを「火事場のばか力」といいます。これは、実際にあるそうです。私たちは、普段は、自分が持っている身体能力の７割程度しか使っておらず、残り３割は温存していると言われています。では、その７割の能力でさえも本当に全部使っているのでしょうか。身体能力に限らず、持っている才能を最大限使っているでしょうか。こう考える前に、そもそも自分自身が持っている才能に気づいていますか。

社会に“生きる存在”

人は自分が持っている能力に、自分自身で気づくことはあまりありません。人からほめられて初めて自分に才能があることに気づくことが多いのではないでしょうか。「歌が上手だね」「ファッションセンスあるね」「親切だね」「頭いいね」など、人から言われて、初めて自分はそういう人なのかと思ったりします。つまり、人間は、社会の中で生きており、社会の中で自分自身に気づかされる存在なのです。

では、学校は、社会の中でどんな役割を果たしているでしょうか。学校は、生徒たちにとって最も身近な「社会」です。友達と一緒に活動する場です。つまりそこは、自分自身の才能に気づかされるチャンスがたくさんある場所だということです。友達からほめられたり、応援されたり、もちろん自分が友達にそのようにするチャンスもある場所です。生徒たちにとって、学校は、自分自身が持っている才能に気づくチャンスがある社会ということになります。そして、その才能を最大限に伸ばしていくことのできる社会でもあるのです。

2. 学びの基本は疑問と議論

学校という社会で伸ばす才能はいろいろあります。その中でも、学校に期待されているのは、「学ぶ力」を伸ばしていくことです。自分で学ぶことのできる力を身につけると、一生涯、才能を伸ばしていくことができます。ですから学校では、生徒たちが自分自身で学ぶ力をつけようとします。その第一の出発点は、疑問を持つことです。

時代を変えた科学者

「疑問を持つ」ことは、歴史的にみると近代になって大切にされるようになりました。王様が支配する時代は、疑問を抱くことは異端や反逆を意味し、禁止されたりもしました。そのような時代を変えてきたのが科学者たちでした。彼らは、さまざまなことに「疑問」を持ちました。疑問があるとそれに対する答えを予想します。それが仮説です。科学者たちはその仮説を証明するために観察や実験をしました。その結果を議論し、検証して確かな説へと高めていきました。このように、疑問は科学的論理的な思考の出発点です。ですから、生徒たちにも疑問を持たせることが何よりも大切なのです。では、どのようにすれば疑問を持つ力を伸ばせるでしょうか。

ユニークな意見大切

その方法は、ユニークな発見や意見を大切にすることです。私たちは、日常生活の中で知らず知らずのうちに常識を学びそれに疑問を持たなくなります。だからこそ、学校では、他の人が気づかないことや少数のユニークな意見をあえて大事にする必要があります。たとえば、市の消防署を見学に行った小学生に「救急車は誰のものですか」と聞いたとします。「消防署のもの」「市のもの」「みんなのもの」などの答えがあるでしょう。

そこで「救急車にその証拠はありますか」と聞くと、「○○市消防局と書いてあるから市のものだ。」などの答えになっていきます。ところが、このとき「救急車は自分のもの」という答えが出たらどうでしょうか。「○○市と書いてあるから市のものだ」という意見の前では、「自分のもの説」は、変な意見になってしまいます。

疑問を持つ心が重要

ところが、消防署員に尋ねてみると意外に「それも正しい」というときがあります。その理由は、「この車は市民の税金で買っている。あなたも市民だから、この救急車はあなたのものでもあるのです」という説明になります。署員は、市民のために働いている。小学生もまた市民なのだ。このような社会的関係性を知るうえで、「救急車は自分のもの」という説は、ユニークな意見というだけでなく、考えを深める効果的な意見ということになります。

このように「疑問」を持つ力を伸ばすには、常識的な意見とは違うが、その意見によって見方が変わる、あるいは深まるという機会を経験させることが効果的だと考えられます。そのために学校は、複数の生徒たちをクラスに集めて、集団で学習活動に取り組ませているのです。そこでは、一人の子があることに気づいて、それをみんなに伝える機会が生まれます。それが「議論」です。学校は、生徒同士が学び合うために、ユニークな気づきや意見を大切にしながら、議論を深めていく場です。

議論は民主主義の根

ところで、議論は民主主義の基本です。「民主主義」は、科学者たちが「疑問」を持つ自由を保障した政治です。現代は、科学者もそうでない人も等しく主権者です。民主主義は私たち一人一人に「疑問」を持つ権利を保障した仕組みです。民主的な社会を持続させるためにも生徒たちが疑問を持つことを大切にしたいものです。

3. 考えるとは自分の言葉にすること

生徒が自分で学ぶとき、疑問から予想（仮説）を立てて調べ、根拠を示して意見発表し、それをもとに議論します。その過程で生徒同士の学び合いが生まれます。このような学習活動の中で、教師は、生徒が考えを深めているかどうかをどのようにして知ることができるでしょうか。

書いた文章に見出し

考えは、自分の言葉にすることによってまとまっていきます。また、考えは書くことによってより正確になります。さらに、書いた文章に見出しを付けると主張はいっそう明確になります。このとき、生徒自身の言葉で表現させること。それが考える活動のもうひとつの基本です。

結婚の大切なこと？

オーストラリアの教師によって開発された人間形成のためのグループ活動モデルの中に次のような問いがあります。「結婚にとって大切なことは？」という問いです。その活動はたとえば次のように進められます。教師は、「いまから結婚について大切なことをいいます。よく聞いてください」と指示して、以下の文章を読み上げます。

・お互いに愛し、思いやり、尊敬し合うこと
・ユーモアのセンスと、生活を楽しむ気持ち
・個人としての考えや経験を尊重した誠実な会話
・いっしょに意義のあることをする
・自分が本当に楽しめる人といっしょに過ごす
・自分本来のあり方や、望ましいあり方、あるいは求めるもの、例えば子ども、仕事、お互いの信頼と責任などについて妥協しない
・相手の短所（疲れ・不器用さ・時々怒りっぽいなど）や、考えの違いに対して寛容になる
・お互いの好みや苦手なこと、気力と体力の違いを受け入れる
・触れ合うこと、抱き合うこと、性交渉を含む肉体関係
・責任を分かち合う

（出典：エリザベス・キャリスター他著『ME YOU and OTHERS　わたし、あなた、そしてみんな』ERIC国際理解教育・資料情報センター訳・刊1994）

表現や言い方に違い

このように読み上げたあと、教師は、「他にあなたが大切だと思うことは？」と聞きます。このとき読み上げたことと同じ内容の答えを言ってもよいのです。たとえ、内容は同じであっても、自分の言葉にしたとき、微妙に表現や言い方の違いが生まれます。それは、それを話した生徒の意見である証拠です。たとえ、似ていても、同じであっても、自分の言葉で表現したとき、その考えは、自分の考えになります。先ほどの問題は、全部覚えなさいというのでなく、自分の言葉にしなさいという問題なのです。

さて、日本では、2010年3月24日に中央教育審議会教育課程部会が「児童生徒の学習評価の在り方について」という報告を出しました。そこで、これまでの評価の4観点が次のように改善されました。

旧	新
○関心・意欲・態度	○関心・意欲・態度
○思考・判断	○思考・判断・表現
○資料活用・表現	○技能
○知識・理解	○知識・理解

言語活動重視の改定

「思考・判断」という観点に「表現」が加わり、「思考・判断・表現」となりました。つまり、前の段で述べたように「自分の言葉にする」ことによって「思考・判断」の有無や程度を評価できるという考え方を明確にしたということです。新しい学習指導要領は、言語活動を重視して改定されましたが、言語活動つまり表現活動は、まさに考えるための活動ということがはっきりしました。私としては、そのほかの観点にも、当然「表現」が必要と考えるのですが、中でも、「思考・判断」の活動と関わらせて「表現」活動があることを明確に示したのが、今回の改定だといえるでしょう。

4. なぜ学校で新聞を活用するのか

これまで、「考える＝自分の言葉にする」「考える＝議論する」「考える＝疑問を出す」ということを述べてきました。ここで、考えることと「新聞」との関わりを述べてみます。それは簡単なことです。

「自分の言葉にする」「議論する」「疑問を出す」それらの活動にとって「新聞」が有効な材料になるということです。

読者に関心を持たせ

新聞は、読者の関心を引きつける見出しや写真など疑問を持ちやすく工夫されています。つまり、「疑問」を持ちやすいように作られています。そして、記事は、生徒たちが予想（仮説）を組み立てるときの部品（情報）を提供してくれます。記事を要約して自分の言葉で説明したり、記事に自分の言葉で見出しを付けるなど「自分の言葉にする」活動に使うことができます。そして何よりも、

記録性（保存性）があります。たとえば、記事を切り抜いてクラスに掲示しておくと生徒たちがみんなで見ることができ、議論のときの共通の情報源になります。新聞社が違っても、大きなニュースなどは、どの社にも載っているので共通性があります。逆にある社には載っていたけれど他に載っていない記事などの場合は、それはそれで、生徒独自の情報源となり、生徒の議論に新たな視点を提供できます。このように考えたとき、新聞は、生徒たちが、考えるときの重要な情報源であることに間違いありません。

新聞を使うのは生徒

その一方で、課題となるのは、「新聞は本当に活用できるのか？どのように活用するのか？」という問題です。新聞は、学校の授業内容に合わせて都合よく記事を書いてくれません。幅広い社会問題を扱う社会科ですら、教科書の内容に合う記事がないからという理由や、教科書の内容より難しい内容だからという理由で新聞活用はできないという声もあります。社会科以外の教科の場合はなおさらです。このような意見に対して、私は、「新聞を使うのは先生ではなくて生徒ですよ」と答えるようにしています。生徒が、授業に関連すると判断した記事を切り抜いて、ノートに貼ったりすることは、教師が推奨すべき自主学習です。

生徒の疑問が出発点

教師が黒板に書いたことを書き写しているだけのノートでは、生徒の主体的な学習力は育ちません。単元のテーマに沿って、新聞記事を切り抜いて「切り抜き作品」を作らせるときは、生徒のテーマつまり疑問が大切です。この活動は、疑問から主体的に情報を集め、自分の考えを組み立てていく手だてとして効果があります。したがって、作品づくりが目的ではなく、生徒の主体的な学習活動の手だてとして推奨されるべきです。「新聞活用」とは、教師が活用するという意味ももちろんありますが、それ以上に生徒が活用するという意味が重要なのではないでしょうか。

5．将来の民主社会の姿

生徒たちの考える活動を充実させるうえで、新聞が重要な材料であることを踏まえると、新聞も含めてマスコミが「ゆとり教育」を批判したことは残念でなりません。生徒に「ゆとり」がある中でこそ、このような新聞活用の時間が取れます。ただ幸いなことに、文部科学省は、今回の学習指導要領の改定で総合的学習の時間を削減し、教科の授業時間数を増やしたねらいを、総合学習で行われたような生徒の主体的な学習活動を教科の時間で充実させ、生きる力を育てるためだとしています。

継続的な新聞活用で

学習指導要領にも新聞を大いに活用することが盛り込まれました。ただ、教師は、学習指導要領にあるから新聞を使うのでなく、生徒が主体的に考える活動を充実させるために、日頃から継続的に新聞を活用してほしいと思います。学校は、生徒たちが集まって、議論のできる場所です。授業や授業以外の時間で、生徒たちが意見交換する機会をより多く持てるような工夫をしていきたいものです。たとえば、新聞記事から疑問を持ち身近な問題や話題に引きつけてスピーチするような活動もあります。クラス全員の前でのスピーチもよいし、慣れない場合は、グループ内スピーチからスタートしてもよいでしょう。新聞という大人社会の窓口と学校という社会を結びつけていく活動は、自分の言葉で考える民主的な大人たちを育てるために、これから一層必要になると思われます。

学校に日常的に新聞

中日新聞社のようなNIEに積極的な新聞社もあります。将来、学校に行くと、新聞販売店の人が生徒用玄関に新聞を貼っている姿があり、生徒たちがその記事を見て何か話したりしている。そこに教師も入って、販売店の人とも議論になるような光景や、教室に行くと、クラスごとに切り抜き記事が掲示されて、授業で話題になったり、生徒たちが比較してみているような光景を普通に見ることができる日が近いかもしれません。

（＊本稿では、新聞が読者対象としている中学生以上を想定して「生徒」と表現したが、小学校でも新聞活用は重要である。「児童」あるいは「子ども」とも読み替えて理解して頂きたい。）

—教育セミナー　現場からの報告—

新学習指導要領とNIE

浜松市立船越小学校　山﨑　章成

静岡県浜松市立船越小学校の山﨑章成と申します。「新学習指導要領と NIE」と題し、新学習指導要領の完全実施に向けて、つたない実践ではありますが、私が取り組んでいることを紹介します。

調べを「学級新聞」に

新学習指導要領の「3・4 年国語」を見ますと、「書くこと：言語活動例」の項目に、「疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること」が掲げられ、「学級新聞の特徴に基づいて書くことが必要」と指摘されています。

2011 年度から使用される国語の教科書を見ますと、どの社も中学年、高学年で、今までになく多く新聞を取り上げています。

新聞を作る学習は、低学年も含めて、多くの教師が積極的に取り上げています。学習したことを新聞に表現することは子どもたちも大好きです。その一方で、4 月に行われた中学校 3 年生の全国学力調査では「新聞記事とコラムの区別がつく生徒は 5 割」という大変ショッキングな報道がありました。

残念ながら、新聞の特徴や、一般の作文と新聞記事の違いを時間をかけて教えている教師はあまりいないのではないのでしょうか。

作る前に特徴を学ぶ

学びをより確かなものにするために、新聞作りの前に、子どもたちに新聞の特徴を教える授業を行いたいと思います。

新学習指導要領「5・6 年国語」の「読むこと：言語活動例」では、「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと」が挙げられ、「新聞は、多数の人々や広い範囲に配布されるメディアとして編集され、社会・経済・政治・産業・国際・教育・文化・スポーツなど多岐にわたる内容が取り上げられている」「編集に当たっては、活字や図、写真などの大きさや行数、配置などを決める割り付けなどが行われている」「記事は、逆三角形の構成と呼ばれることもあるように、結論を見出しで先に示し、リードから本文へと次第に詳しく記述されている」「事件や出来事の報道記事だけでなく、社説・コラム・解説などの記事もある」と指摘されています。

特徴を踏まえて書く

子どもたちが作る新聞も、ノートに書かれた作文や日記などを模造紙などの大きめの紙に書き写して「新聞が完成した！」と言うのではなく、これからは新聞の特徴を踏まえたものを書くことが求められていきます。

私が勤務している市が 11 年度に採用する予定の教科書会社が発行している資料「（新しい国語の教科書の）編集の趣旨と特色」を見ると、4 年に「新聞や感想文の書き方を知り、自分の考えを明確にしながら、理由、根拠となる事実などを入れて書くことができる」と書かれています。

年間指導計画を見ると、4 年生の 7 月に「新聞を作ろう」の単元を 5 時間扱いで、5 年生の 4 月に「新聞を読もう」の単元を 2 時間扱いで行うことになっています。

「NIE に追い風」と言われますが、本当でしょうか。

4 年生でわずか 2%

4 年生の国語の年間授業時数は 245 時間、5 年の国語の年間授業時数は 175 時間もあります。「新聞を作ろう」の授業は、4 年生の国語全体のわずか 2 パーセント、「新聞を読もう」の授業は 5 年生の国語全体の 1 パーセントに過ぎません。

小学校の１年生から６生年までに国語の授業は合計すると1461時間になり、「新聞を作ろう」と「新聞を読もう」の授業は、そのうち0.5パーセントにしか過ぎず、小学校全体の総授業時数5645時間のうち0.1パーセントとなってしまいます。

二つの単元の授業を単元の学習だけで完結してしまうと、他の多くの学習の中に埋もれてしまいます。新聞活用学習は、目的ではなく手段です。そんな特性を考えると、「新聞を作ろう」「新聞を読もう」の学習の後、さらには６年生に進んだ後も、その成果を生かした学習を展開していくことが大切になります。新聞活用学習は、その後のさまざまな学びの入り口とすべきだと思います。

小１から積極的推進

新聞活用学習、NIEを学校教育に定着させるためには、「個々の学習につながりをもたせる」「学習の成果をより多くの学習に生かす」ことが大切です。そのためにも、小学校の１年生の段階から積極的に学習に取り組んでいくことが重要になると思います。

新年度から使用される国語の教科書を見ますと、次のような教材が目につきます。何をどのように教えればいいのかを学ぶヒントになろうかと思いますので、読み上げてみます。

光村図書では、「新聞を作ろう（４年上）」、「新聞を読もう（５年上）」。東京書籍では、「みんなで新聞を作ろう（４年下）」「新聞記事を読み比べよう（５年上）」「新聞の投書を読み比べよう（６年上）」。教育出版では、「学級新聞を作ろう（４年上）」「情報を集める（５年上）」。学校図書では、「新聞の読み方を考える（５年下）」「メディア・リテラシー入門（６年下）」。三省堂では、「新聞でニュースを伝える（４年）」などです。

それでは、私が実践してきたものの中からいくつかを紹介します。

まず丸ごと味わわせ

まず最初は１年生での実践です。６年生や中学生でも抵抗があるのに、小学校１年生で新聞活用学習、NIEに取り組むのには無理があると考えられる方が多いと思われます。しかしながら、教科書会社によっては「生活科」の学習で「新聞にまとめよう」という例示をしているものもありますし、多くの先生方がさまざまな授業で新聞作りに取り組んでいるのも事実です。

新聞について何も知らない子どもたちに、あいまいなままに「新聞作り」をさせるのではなく、新聞とは何かを理解させることは大切な学習であると思います。

以上のような考えのもと、１年生の４月に、新聞をまるごと味わわせ、１年生なりに新聞の魅力を学ばせようと試みてみました。

あいうえお探しから

子どもたちに新聞を用意させ、「新聞の中から、あいうえおの字を探して、切り取りましょう」と呼びかけたのです。紙面には漢字や平仮名、片仮名、アルファベット、数字などさまざまな文字が使われています。そんな中にも、１年生の４月でも読める「あいうえお」などの平仮名がいくつもあるのです。

子どもたちは、紙面をめくりながらさまざまな文字に出合います。写真やイラスト、グラフ、図なども目にします。平仮名探しをしながらも、新聞に何が書かれているかに次第に気付き始めます。「新聞には、いろいろなことがのっているね」「テレビのニュースで見たのと同じ写真がある」「小さな字だけでなく、大きな字やカラーの字もある」等、つぶやきながら作業を進めていきます。

１年生で楽しさ学ぶ

そんな子どもたちに、新聞は「日々のさまざまな出来事を、文字と写真を使って分かりやすく伝えてくれるもの」であることを教えると、１年生の子どもたちでも新聞の魅力を理解することができます。

紙面から「あいうえお」の平仮名を探す学習では、見出しや広告の文字に着目させるようにしました。本文の記事の文字より大きなものが多く、切り抜く作業をしやすいのと、文字の特徴に気付きやすいためです。この学習を保護者に知らせたところ、多くの方々が積極的に協力してくれました。

平仮名の「あいうえお」を探す学習を終えた後、子どもたちは次のことに気付くことができました。

・字にはいろいろな形がある。
・一つ一つの字には特徴がある。
・自分が字を書く時のお手本にできる。
・他の字も探してみたい。
・親子で新聞を切り抜いていたら、記事のことが話題になった。

さまざまな学習に発展

平仮名の「あいうえお」を探す学習は、5月以降の、そして2年生以上のさまざまな学習に発展させることができます。

1年生では、「ほかの平仮名を探そう」「カタカナを探そう」、中学年では「外来語を探そう」「熟語を探そう」など、子どもたちが興味深く取り組める手がかりが新聞の中にいくつもあるのです。

4年生で「新聞から外来語を探そう」の学習を行ってみました。1年生の「平仮名を探そう」と同じ形式のワークシートを使うと、兄弟が楽しみながら学習できるという思いがけないうれしい報告もありました。また、切り抜きを貼る時間がない時には、新聞に直接丸印を付けるだけでも立派に学習を成立させることができました。

中学年で 5W1H を

新聞活用学習、NIE を確かな学びにするために、低学年のうちからきちんと学び、それらを点で終わらせず、次の学びにつなぎ、広めていくことが大切だと思います。

中学年でぜひ指導したいものに、5W1H があります。教科書によっては、本文に明記しているところもありますが、事実を正しく伝えるために必要な6つの要素です。

5W1H の学習は、その後に「見出しを付けよう」「事実と意見を区別して書こう」「大事なことを落とさず読もう」等の学習に発展させていくことができます。

「When（いつ）」「Where（どこで）」「Who（だれが）」「Why（なぜ）」「What（何を）」「How（どのように）」は、一昔前の国語の教科書では各社のものに載っていたのですが、最近は本文の記述として載っていない教科書もいくつかあります。新聞活用学習、NIE に限らず、とても大切なことですので、きちんと教えていきたいものです。

活用は授業だけでなく

新聞を活用するのは、授業だけではありません。「新聞のある学級・学校を創る」ことが大切だと思います。子どもたちが選んだ記事を朝の会や帰りの会で発表したり、子どもたちの啓発につながる記事を教室や廊下に掲示したりする実践は、多くの先生がされていると思います。

そうした切り抜き記事を分類してファイルしていくと、お手製のデータベースを作ることもできます。

私が10年以上前に勤めていた学校で、「子どもたちや教師に役立ちそうな新聞記事があったら切り抜いてお知らせください」とボランティアを呼びかけたことがあります。この取り組みは、家庭でだれもができることから祖父母の方々からも好評で、今でも続いています。

教科領域ごとに分類

切り抜き記事をスクラップする際、私は A4 判の紙の上部に「新聞社名」「（切り抜き記事の）掲載年月日」「（記事の活用が可能な）学年、教科領域名」を印刷したものを使うようにしています。長年スクラップしていますと、膨大な量になりま

す。時系列に沿ってスクラップする方法が一般的であろうかと思いますが、切り抜き記事を教科領域ごとに分類しておくと、記事を利用する際に便利だと思います。また、必要な紙をファイルから取り出すこともできるため、持ち運びも簡単にできます。

次に、私が発行しているNIEの啓発紙「アドバイスNIE」についてお話しします。新聞活用学習、NIEについて、私が学んだことをさらに深めるとともに、何とか広めたいという思いから始めたものです。この「アドバイスNIE」は、月に三度、十日に一号の割合で、NIEの指導者にとって実践の手がかりになればとの思いから発行し続けています。静岡県内で実践している先生やNIE実践校、NIEに興味をもっている先生らを当初の対象としていました。口コミで徐々に広がり、中部地区をはじめ、関東、近畿、中国、四国、九州地区にも配布先が広まり、大学の研究者や新聞社のNIE担当者などからも指導を受けています。

読み解きテクニック

最後に、私が考えた「新聞読み解きテクニック」を紹介します。

この図は、「小学生に新聞は無理なのでは？」「一人一人の子どもに合った新聞の読み方を教えてほしい」という声を多く聞き、それらの解決のヒントになればと作ったものです。

まず、お子さんに「新聞記事の漢字がほとんど読めるか」聞いてみてください。YESであれば、新聞を丸ごと読み味わうことができます。中学生以上なら大丈夫のはずです。時間が無い時は別として一面から最終面まで一度は目を通す習慣をぜひ身に付けさせてやってください。一覧性は、新聞の魅力の一つです。NOの場合は、「見出しの意味がだいたい分かるか」聞いてみてください。YESであれば、見出しやリード文を手がかりに記事の概要をつかむようにしましょう。小学生でも中学年以上なら挑戦できそうです。NOの場合は、「写真をもとに読み取る」ようにアドバイスしてみてください。文字の制約を受けない写真は、低学年の子どもでも何かを得ることができるはずです。

温かい大人の目線を

いずれの場合も、子どもが初めて本格的に新聞を読む場合は、できれば温かく見守る大人がそばにいて、必要に応じて声をかけることができればと思います。新聞は、小説や物語とは違い、どこから読んでも、何を読んでも役に立つものですが、「新聞嫌いの大人」の中には読み方が分からないことを理由にする人も数多くいるようです。

新聞は、読み解き方を工夫するとだれもが何らかの情報を得ることができるのです。

以上、「新学習指導要領とNIE」と題し、つたない実践を報告させていただきました。新聞活用学習、NIEに深まりと広まりをもたせるために、以下の点に留意していきたいと思います。

最初の点は、「各学年で身に付けるべきことを明確にすること」です。小学校中学年までに新聞の基礎基本を理解させ、高学年では新聞の特性を理解させることや、中学校、高校との連携が必要になろうかと思われます。二点目は、「プラスアルファの活動から必須の学習にステップアップ」させることです。今まで、ともするとNIEは新聞活用学習に興味をもった一部の教師が取り組むものとされてきた感じがします。指導要領に具体的に位置づけられたことから、今後は発展学習ではなく、どの教師も子どもも学ぶ必須の学習、学び方の基礎基本であることを認識したいと思います。

生きた社会を学んで

三点目は、「実践に広がりをもたせる」ことです。学校教育の場で行われるさまざまな学びの中で、子どもたちが生きている日々の社会そのものを学ぶのに新聞ほど適したものはありません。学校の学びを開き、学校と家庭、地域を結ぶ懸け橋とすることもできるはずです。そのためには、校内では新聞活用学習、NIEをすべての教師・子ども・保護者の共有財産とし、すべての教科領域の学習に新聞活用学習、NIEの成果を生かすことが不可欠だと思います。

ご静聴、ありがとうございました。

中日いきいき学習賞、特別奨励賞

中日新聞社では、新聞を授業や課外活動で活用し、成果をあげている中部9県の小学校・中学校・高等学校の教師（個人またはグループ）を対象に「中日いきいき学習賞」を贈っています。創設されたいきさつは、次のとおりです。

新聞を学校教育のいろいろな場で活用する「NIE」は、1985年の第38回新聞大会（静岡大会）で提唱され、89年に東京で小学校1校、中学校2校がパイロット校（後の実践校）として活動を始めました。今日では全国の小・中・高等学校500校余りが実践校として取り組んでいます。

中日新聞では1994年名古屋本社NIE委員会を発足させ、NIE活動の重要性を考えて95年にNIE事務局を設け、中部9県を対象に普及啓発活動を始めました。

大きな事業の一つが、新聞記事を使って自分の考えをまとめたり、主張したりする「新聞切り抜き作品」作りです。作品の応募が軌道に乗り始めた97年、NIE活動に熱心に取り組んでいる先生方を顕彰するために「中日いきいき学習賞」を創設しました。

審査基準で特に重要視したのは、一過性の実践でなく継続的な実践であることでした。さらに「新聞切り抜き作品」、「学校・学級新聞作り（教師作成の通信等も含む）」の指導実績、コンクール応募実績、本紙NIE関連紙面への取材協力や投稿なども参考にしています。以来、毎年数人ずつの先生方が受賞され、いまでは総数60人余になっています。

これまでの受賞者の内訳は愛知22、三重4、岐阜13、静岡12、長野4、滋賀3、福井4、石川3、富山1です。

「中日いきいき学習賞」創設から12年目を経て、受賞者の中で10年以上こつこつとNIE活動を継続してきた先生方をさらに顕彰しようと「中日いきいき学習賞　特別奨励賞」を創設しました。募集要項を載せておきますので、多くの方々の応募を待っています。

中日新聞社は、中部９県の小中高校で、新聞を授業や課外活動などに活用して成果を挙げたり、新聞切り抜き作品や学校・学級新聞づくりを意欲的に指導したりしている先生を顕彰し、「中日いきいき学習賞」を贈ります。

主催	中日新聞社
後援	愛知、岐阜、三重、静岡、長野、滋賀、福井、石川、富山の各県教育委員会および名古屋市教育委員会
対象	中部9県の教師（個人かグループ）
応募方法	・B4用紙1枚の実践報告書を提出（横書きで中央を2つ折り） 最初に応募者氏名（グループの場合は代表者氏名を）、年齢、所属学校名、職名、学校所在地、郵便番号、電話、FAX番号、自宅住所、郵便番号、電話番号を書く。 ・報告書の他に、本紙に掲載された記事があれば添付する。 ・授業記録や写真などの資料を付け加えても良い。
報告書の内容	・新聞を授業や課外活動などに活用した事例 ・新聞切り抜き作品や学校・学級新聞づくりを指導した事例
締め切り	毎年1月10日ころ
審査	提出のあった実践報告書の内容、実績などをもとに評価する。
表彰	・銅製賞額と副賞（8万円）を表彰式で贈る。 ・受賞者は、毎年2月下旬に中日新聞、北陸中日新聞、日刊県民福井の各紙上で発表する。
応募・問い合わせ先	送り先：〒460-8511　名古屋市中区三の丸一丁目6-1 中日新聞社「中日いきいき学習賞」係 電　話：052-221-1047　FAX：052-221-0856

※お断り…入賞者名簿、写真などは、新聞、電子媒体に掲載することがあります。

編集後記

若い先生が手に取り「NIE を学んでみる気になる初心者用のガイドブック」を目指し製作しました。できる限り堅苦しい文章にならないように「である」調は避け「です」「ます」調に心掛けました。この冊子が、NIE に取り組もうと考えている先生の参考になれば、うれしい限りです。

編集者を悩ませたのは、NIE を実践している先生に依頼した原稿がパソコンのソフト「一太郎 2010」で最新バージョンだったことです。最新版を急きょ買って対応したのですが、日ごろ「一太郎」を全く使っていないので、文章を直すこと自体に手間がかかりました。直せないところは、印刷業者に依頼し処理しました。

冊子の製作過程で、掲載予定にしていた「わが社の教育紙面」の説明部分が、4 月から大幅な紙面改革によって、書き直しの必要に迫られました。その部分を急きょ削除し、新しい新聞の紙面ができあがり、差し替え用の原稿が出稿されるのを待つことになりました。予定の 4 月 1 日発行が遅れたのは、このためです。

今回、ガイドブックは、多くの人に執筆依頼をした関係でしょうか、文章に筆者の特色が出て、それぞれに熱意が伝わってくる内容でした。半面、冊子全体としての統一性に欠けた部分もありますが、ご容赦ください。次の中学校編では、そのあたりの対応も検討すべき課題かもしれません。（渥）

発行日	2011 年 4 月 29 日
編集・発行	中日新聞社 NIE 事務局 〒 460-8511　名古屋市中区三の丸 1-6-1 電 話：052-221-0458 FAX：052-221-0857
発行者	中日新聞社代表取締役社長 大島　寅夫
印刷	西濃印刷株式会社 〒 500-8074　岐阜市七軒町 15 番地

ガイドブック製作の事務局スタッフ

事務局長	西尾　敏正
委員	渥美　勝朗
	服部　　賢
	今井　啓代
	門脇　　力
	川本　公子
コーディネーター	原田　紀保
	加藤　　毅
	加藤　榮治
写真取材	中日写真部員

第17回新聞切り抜き作品の小学6年生の部
中日大賞受賞作品